

明治三十一年四月正教會編輯局

主禱輯釋

露國主教斐沃芳撰
日本堀江復譯

020733-000-2

特18-6

主禱輯釋

斐沃芳／撰

M3 1

ABI-0553



主禱輯釋

小引

これ主の祈禱の解釋にして故の有名なる主教斐沃芳

先聖教師の言よりてものしたるあり

を主の門徒にさづけ給ひし此祈禱は言約なれども

義廣く詠る所弘大にして意味深長なるは先哲の名々

ゆへ小福音といひしにても知らるゝなりされは善く

これを説明し又善く其旨を發揮するに豈容易の業な

らん主教斐沃芳解するよ己の知識を藉らず勵めて在



小引

一

昔聖なる父師等のいひと最貴くして且最力ある言を
 采り輯めて此注釋を成せるは以て其意の在る所を知
 る可し、はた其見の尋常にあらざるを察するに足る、今
 や子の口づから授けられしものをもて天の父に禱ら
 んと欲する者先づ此書を取りて熟讀玩味し寔に能く
 これを心に得て然後これを口より發すると當時子の
 口より直に出づるが如くなるを得は其聽かるゝと必
 ず疑ふ可らざるなり。
 此書に掲載せられたる聖なる父師は左の如し



テルトリアン〔降生後二百二十年逝世〕引用したるは背
 教以前の言あり、聖キプリアン〔二百五十八年致命〕ニス
 サの聖グリゴリイ〔三百九十四年後逝世〕イェルサリムの
 聖キリール〔三百八十六年逝世〕第五の機密說話〔聖金口
 四百七年逝世〕馬太傳福音の講話、窄門といふ言に就講
 話及其他〔聖カシアン〕四百三十五年逝世、第九の對話〔福
 アウグステイン〕四百三十年逝世、主の山上教訓に於る論
 文、第五十六、七、八の説教、及第百三十の書簡、表信者聖
 クシム〔六百二十二年逝世〕福フェオドラグド〔一千〇八十

第六求望……………二百六十八

第七求望……………三百六五

サ頌讚……………三百十九

三、收結……………三百二十八

一、主の御遺教……………六十八

二、公函……………六十三

三、主の御遺教……………四

一、主の御遺教……………十二

二、公函……………一

目録

主 禱 輯 釋

露國主教フエオファン撰

日本 堀江 復譯

主の祈禱總論

ラルトリアン曰く我等の主イエスハリストスは神たる精神を以て
 も神たる言を以ても神たる睿智を以ても自ら己をあらはし給へり即
 ち神の如く大有能に働ける精神と其の教へたる言と其の自ら來りて
 願は給へる睿智とをもてあらはしたりささればハリストス主の立
 てられたる祈禱も又此の三者より成る、即言ふ所の言とかくの如くよ
 力ある精神と又其の睿智より流れて受けらるゝものとより成るなり。

主の祈禱總論

イオアンも其門徒も祈禱するを教へたりき、さりながらすべてイオアンは屬する者はハリストスの爲に預設せるよてハリストスの盛なるに隨ひ此の預設者の事業は其の精神と共にすべて主に移さんが爲なることはイオアンの自から預報したる如し、曰く「彼は必ず盛なり我は衰へん」イオアン三の三十、故にイオアンはいかなる言を以て祈禱するを教へたりしや、其事は復た守られざりき、けだし地は屬するものは天に屬するものは位地を讓らざるべからざりしよ、よるいへらく「地より出づるものは地は屬し其の言ふ所も地の事なり、天より來るものは万物の上より彼は其見しところ聞し所を證す」イオアン三の三十二、それハリストス主より出たるもの、中此の祈禱の如き、或はいかよ祈

禱すべきを教へたる教訓の如き、いづれか天に屬するものよ、あらざらざれば祝福せられし者よ、先づ隱は祈禱すべきとの誠命は於て其の天に屬するの睿智を察ん、これ主の人より信仰を促すものよ、して大能なる神の目と耳とは最奥密なる隠なる處にも存するを信せしめんが爲なり、又これを以て主は人より信仰の謙遜を望み給へり、これ人をしめて其の最虔恭なる祈禱の感情を獨一者の前よりひわらはして、其の見ざる所なきと聞かざる所なきとを信せしめんが爲なり、其後又同様の信仰と謙遜とを要するの誠命、即祈禱は於て多言すべからざるとの誠命は、於ても其の天に屬するの睿智を察ん、これ我等祈禱は於て言多きをもて主は就かずして其の我等を慮る至極の照管を信認せんが爲なり

り主の立て給へる祈禱はかくの如し。彼は簡短なりされどもこの簡短は解釋の爲に富みて且つ愉快なる糧を與へんとす。彼は言約なる程意廣し。けだし彼は祈禱に於て表はすべきもの即神の前より虔恭する事と神の願をさしぐる事とを包含するのみならず主の一切の教導を總括して其の諸の教訓と誠命とを記憶せしむるなり。けだし彼は實に全福音の小略といふべし。

聖キプリアン曰く至愛者よ福音の誠命は神の教へ給へるものよて望を建つるが爲の基礎たり信を堅むるが爲の堡砦たり心を樂ましむるが爲の糧たり路を示すが爲の舵たり救を得せしむる眞誠の方法たり此の外他よあるよあらざるなり。彼は教に服従する信者の智識を地上

よ整備へて天國に導かんとす。神は其の僕預言者よりても許多の事を報して之れを聞かしめ給へり。さりながら子の言ふ所のもの即會て預言者をもて言はしめたる神の言を親しく己の聲をもて證するものは幾ばくか高上なる。即其の將に來らんとする者の爲に途を備ふるを命ずるのみならず最早彼自ら來りて途を啓き且示して先きよ死の暗の中に迷ひ何も見ずして盲目なりし所の我等を今は恩寵の光の輝々煌々たるをもて照し以て主の嚮導と統治との下より眞正なる生命の途を取らしむるものは幾ばくか高上なる。彼は他の救に關する教訓と人々を助けて救進歩せしむる神なる誠命とを授けたりしが就中自ら祈禱の模範を與へて自らいかよ祈禱すべきを訓諭教授し給へり。生命を

與へし者は祈禱することを授け給へり、これ我等も他の諸賜をも分ち給ふ仁慈より出づるものにして子の我等も教へたる請求の祈禱をもて父に向ひて我等直よさかるゝを得んが爲なり、是れより先き祈禱を授くるの先き』時來る今是なり眞の拜する者神をもて眞をもて父を拜せん『イオアン四の廿三』の給ひしが今は祈禱を與へて其の約したる所を實よし給へり、故に我等聖神をうけ又聖神の照明より眞をうけたる者は彼も授けられたる祈禱を以て祈りつゝ實に神と眞をもて父を拜せん、けだしいかなる祈禱はハリストスの我等も授け給へるものより尙神なるべきか、彼よりて聖神も我等も下賜ひしよあらずや、又いかなる祈願は自ら眞なる所の子の口をもていはれしものより尙

父も眞なるべきか、故に主の我等も教へたるより外に祈禱するはたゞ無智なるのみならず更は犯罪たるとは此の後彼の自ら定めていひしが如し、曰く『汝等遺傳よりて神の誠を廢せり』(マコイ十五の十六)されば至愛なる兄弟よ我等は師たる神の我等も教へ給ひし如く祈禱せん、愛すべく且懇切なる祈禱即な汝言をもて神も願ふ所のものもハリストスの祈禱よりて神の耳も達せん、願くは父に向ひて祈禱を行ふ時父は其子の言を認識せんとを心中内部に住る所の者は願くは亦言まもあらん、けだし我等は己の罪の爲に父も對して彼の獨一子を保惠師と爲すよより『イオアン一書二の一』我等罪人たる者己の罪の爲に祈禱する時は我等の保惠師の言をいはん、けだし彼は我が名よりて父

願ふ所のものは何論なく我等と與へん「イオアン十六の廿三」言
 ひ給へば我等ハリストスの名よりて求むる所のものを請願するよ
 ハリストスの祈禱を以てするは豈更に有能にわらずや。
 ニスサの聖グリコリイ曰く神の言は我等と祈禱の教訓を授けだし
 これ祈禱の知識を切に求むる堪能なる門徒といかなる祈禱の言をも
 て神の耳を傾かしむべきをわらはすなり大なるモイセイがイスライ
 リ民をして山上に於て奥旨をうくるの準備を爲さしむるや先づ彼等
 と神現を受くべき資格を與ふるをせずして肉體の潔きを守ると洗
 滌をもて清淨とするの法を民に命じたる后これと與へたりき然
 れども此後もイスライリ民は神威の顯現を見んとを敢てせずしてな

は其のすべて有形的なる火と暗と烟と喇叭とは彼等を大に恐怖せし
 めたりきされば彼等は新に我に歸りて立法者神意に對して仲保者
 とならんとを願へりけだし神は近づきて神の臨在に耐ふべき充分の
 能力は彼等とわらざりしよる然れども我等が立法者主イエスハ
 リストスは我等を神の恩寵に導かんと欲し我等に示す言を以てし
 て暗に蔽はれ火焰を呼吸する西乃の山は於てせざりき又何か解す
 る能はざる怖ろしき響を爲す所の喇叭の聲をも以てせざりき三日間
 肉體の潔きを守るをも以てせず不潔を洗ふの水にて心を淨むるをも
 以てせざりき全教會を山麓よといめて唯一人よのみ神の光榮を隠し
 暗に蔽はれたる巔に登るを許すをも以てせざりき反りて初は先づ山

は代へて人々を直ち天に昇し天をして人々の爲は徳行に頼りて通
 過し易きものとならしめたり其後彼等を神の力の親見者とならしむ
 るのみならずなほこれ分ある者とならしめ主は就く所の者をして
 或る方法を以て至上の性と親屬たらしめ其の最上の光榮を尋ねる者
 の爲は見易からざらしめん爲め暗くて蔽ふを爲さず反りて晴明なる
 教の光にて暗を照して心の清きものと言ふ可らざる光榮を全く明亮
 は洞見すを得しめたりされば酒々が爲は水をも興ふれども他の流
 れより汲む所のものはあらずして我等自己の中は流るゝものなり
 これ誰か或はこれを指して心の目の本源なりといひ或は潔き良心な
 りと云ふも拘はらずいかなる悪の淤泥をも入らしめざるを定めて

法となしたるものなり然れどもたゞ夫婦の正しく相偕するを節す
 るのみならずもろく物体に傾くの慾情をも制して肉体の潔きを立
 てしめかゝの如くもして祈禱により神は昇さんとすけだし言の旨趣
 はかゝの如し神の言はよりて我等の不知すべきは語法はよりての
 所の或る響きはあらずして高き生活をもて速に成就せしむる神に
 昇るの預圖あり
 聖金口曰く主は門徒等と祈禱の模範を興へ祈禱は於て何を言ふべき
 を訓示すると共に僅少の言を以てこれをもろくの道徳を教ふるな
 りけだし此の言は祈禱に於けるの訓誡を籠むるのみならず完全の生
 活をも教ふればなりゆゑは此言の旨趣を全く勉めて討究せんさらば

これを神の法として確く守るを得ん。
 表信者聖マクシムは此祈禱に於て左の諸點を見る、曰く「神學なり、恩寵
 よりて義子となり、諸神使と同尊なるとなり、永生を享るるをな
 り、天性を其の固有なる無欲の段に回復すとなり、罪の法を脱るゝと及
 び詭計をもて我等を占領したる兇惡者の暴虐を滅すとなり」。

分 開

基督教訓業曰く主の祈禱を研究するに彌便ならんが爲これと呼起
 と七求望と願望とを分たん。

呼 起

天に在す我等の父よ

天よ在す

聖金口曰く主が祈禱に於て天よ在すといふは神を天上に鎮すをあら
 ず祈禱する者を地より引出して極高の國天の住所に立つるなり。
 又曰く主は我等を地と地とに属するものどを棄て、下方を俯視す信仰
 の翼をもて大氣よりも上へ飛び精氣よりも高く騰りて稱する所の父
 より進行するを教へんと欲して天よ在すといふべきを誠命し給へり、こ
 れ神はたい天よのみいますが爲なるよならず地を踏する所の我等を
 天よ向はしめ天上の善の美をもて照し輝きて我等の悉くの希望を彼
 處に轉さしめんが爲なり。
 福フェオフィラクト曰く主は天よといふて神を天よに局限るよならず

者を天よ擧げて地よ属するものより引離すなり。
 又曰く主は天よてふ言をもて汝よ其本國と父の家とを指示せり故よ
 神を父とせんを欲せば天を仰見よ無言なる者の如く地よ俯すなかれ
 主教テ・ホン曰く天よといふは神の天よ閉居らるゝが爲よわらず祈禱
 するものを地より引出して天の住所よ擧ぐるなりと聖金口はいへり、
 此くいふははげだし彼處よ被選者の本國ありて神は其光榮よより彼處
 よ己をあらはし其の諸聖人の靈を樂ましひるよよるなり然らずんば
 神は實よいづれの處よもあらざるなく天よも地よも在すとは聖詠者
 の唱ふが如くなればなり曰く我等の神は天よあり又地よあり「聖詠百
 十三の十一」

聖カシアン曰く祈禱よ於て天よ在すといふを添るはこれ我等をして
 流浪人の如く我が父より甚だ遠く離れしむる現在地上の生活を思ふ
 の念を百方避けしめて我等の信認する如く父の住まはるゝ國よ切な
 る望をもて向はしめんが爲なり且我等をかくの如き位地と此くの如
 き義子たるの貴きとよ當らざる者となして變生者の如く我等より本
 國の嗣を奪ひ神の義判の至嚴しきよ服さしむべき所のものを一も許
 さいらしめんが爲なり。

ニスサの聖グリゴリイ曰く天よ在すといふ言は我等がいかなる本國
 より落魄ていかなる貴きを失ひしを記念はしむるなり聖書よ父家を
 すて、豚の如き生活よ陥りし少年の傳記よ於て其の遠く離れたると

其の放蕩なる生活を歴史的に描寫して人間の災難なる状態をあらはし其の漸く現在の不幸を感じて我よ歸り自ら痛悔の言よ思付く迄は先づ彼をして最初の分限よ歸らしめざるをいふこれ祈禱の言と聊符合するあるなりけだし彼處よ少年は父よ我れ天と汝の前よ罪を獲たり「ルカ十五の廿一」といへりさりながら彼は己の本國即天をすて罪よ陥れりと確信するとなかりせば罪の承認よ於て天よとはいはざりしならん故よ此の如き痛悔の念は父をして彼よ近づかしめたるよより父はとく趨進みて其子を迎へ頸を抱て接吻せり故よ彼處よ於て彼の父家よ歸りしは父の彼よあらはせる仁慈の原因となりし如く意ふよ此處よ於ても主は天よ在す所の父を呼ぶべきを教へて汝よ至善

なる本國を記念はしむるなりこれ至善なるものを願ふ強き願望を汝よ起さしめて新よ汝を本國よ導くの途よ立たしめんが爲なりされば人性を天よ昇すの途は他よあらず地上の惡より離れ且逃れしむるよあり然して此等の惡より逃れ避ぐるの方法となるべきものは思ふよ神よ育るとの外これあらざるなり且神よ育るとはこれ即義なる者聖なるもの善なるもの及びすべてこれよ類する者となるよあるなりもし誰か此等の完全の性質を出来るだけ分明よ己れよ印するならば宛も天然よ順ふものよ如く勞せずして地上の生活より天上の國よ移らん何となれば神性の人性と相距るは何か場所よ關係するあるが如くなるよ非ず此の重くして人を苦しむる地よ属するの肉体をして不朽

靈神なる生活の狀に導き入らしめん爲め我等は何か器械或は發明に
 要用あるべきが如くなるは非ればなりされども人が智慧にて徳行を
 邪惡より分離したる后希望の傾向ある處あると否とは獨り人間の自
 由に係る故に善なるものを選ぶに何等の難きともあるなく又既に選
 びたる后其の選びし所のものを得るともこれに隨て生すべきより
 己の智識にて既に神を曉れる汝は亦直ち天にありてを得るなり傳
 道之書にいふ如く神は高く天に在して(五の二)汝は預言者の言ふ如く
 神は近づく(聖詠七十二の廿八)ならば神と一たる者にして神の在す所
 にあるべきは必然の理なり。

イェルサリムの聖キリール曰く「天に屬する者の狀」コリント前十五の四

十九を己れに負ふ者も天となるを得ん神は彼等と約していへり曰
 く「汝等の中は居り且行かん」コリント後六の十六。

ソルンのシメオン曰く「天に在す」けだし神は書さるゝ如く聖にして聖
 者の中は居ればなりさて天上に住する諸神使は我等より聖なるを天
 の地より清きが如し故に神は特に天に在すと思はるゝなり。
 福アウグスティン曰く此の如く永遠の業を嗣ぐに召されたる新約の新
 なる民は呼んでいふべし曰く天に在す我等の父よと天よとはこれ
 即聖人及び義人よといふ意なり神は或る方處的幅員を以て限らるゝ
 はあらずたとへ天は光明をもてあらはるゝといへども全く物に屬
 する有限的の方處なりもし神はたゞ世界の高上なる部分のみ住ま

はるゝとせば鳥は吾人よりも幸福なるべし何となれば神は尙近く居ればなりされども主は高く且いよゝ高く登されし者又は山地に居る者も近しとは書されずして「主は心の傷める者も近し」聖詠三十三の十九といへり心の傷めるはこれ即謙遜なる者及び自ら卑する者の属性なり罪人は「汝は地なれば地は歸るべし」創世記三の十九とつけらるゝや地と名づけらるゝ如くこれと反對に義人は天と名づけらるべし義人等もつけていふあり曰く「神の殿は聖なり此の殿は即汝等なり」コリント前三の十七故に神は其殿に住して諸聖者は神の殿たるならば天にいますてふ言をもて諸聖者は在ますと了會するは當然なるべし且や靈神上の關係も於ても諸義人の罪人より隔たるは天の地より隔

たるが如くなるよよりかくの如く適用するは更便なりとすそれ我等祈禱も立ちて太陽の昇る所の東方に向ふは神が世界の他の部分をすて、彼處に住するよよるよわらずけだし彼は何處も常ありて其尊嚴を極むればなりされば我等太陽の昇る所の東方に向ふはこれ其体即地も属する体が更も高尚なる体即天も属する体も向ふや其の精神をも至高至上なる實体即神も向はしめんが爲なりされどもこの言「天よといふ言」は心靈上成長の度も準じていふなりけだし祈禱もより衆人の心を其力も隨ひて神も適するの感情も充たしめんが爲なり夫の見ゆる有形の美もなほ心を奪はれて脱然として無形なるものを思ふ能はざる者の爲もは天を地よりも貴しとするは必ず免れざるも

のなるより其思力に應じて神は地よりも特に天にありと信認せらるべし何となれば彼等は神をなほ有形的に識認すればなり。さりながら彼等靈魂を瞭解し其價值に於てもろくの物体且は天体にだも秀出すとする時は彼等は神を如何なる物体たどへ天体となりとも置かざるよりは心靈に置かんとを始むるなり。されば彼等は罪人の靈魂が義人の靈魂を距るの幾何なるを瞭解して先きに肉身より推考へたる時神を地上に置くを敢てせずして天上に置きし如く今はいよく高尚なる認識と最上の信仰とを照されて神を義人の靈魂に置き彼に於てこれを尋ねて罪人の靈魂に於ては尋ねざらんとす。ゆゑ天に在すてふ言をもて神は義人の心においでと猶其の己の殿においですが如

しといはれたらんやうに瞭解するは當然なり。かゝる意味にて此言を誦する所のものはかくの如く呼ばるゝ者の己れ自己に住み給はんとを願ふなるべく且此を願ひて正しき生活を操守るべし。けだした。此の如き方法により神は誘引せられて靈魂に居住するに至ればなり。

我等の

聖キプリアン曰く和平の教師一たるとの教訓者はまづ第一に祈禱の個々特殊に行はれて祈禱する者たゞ自己の爲のみ祈禱せんことを欲し給はざりき。實に我等は天においでます。我が父よといはず。或は我が糧を今日我と共に給へといはず。我等はおのゝ亦たゞ自己の負の免されんとのみを願はず。又誘惑に陥らずして兇惡より救はれんが爲にも獨

り自分の事のみを祈らざるべし我等は万民公同の祈禱あり故に我等祈禱する時は万民の爲に祈禱するなり何となれば我等は皆悉く一たるを成せばなり神即平安と和合の教訓者一たることを訓へし者は我等各々獨り衆人の爲に祈禱するを神の獨り衆人を負ふが如くせんをを誠命せり此の祈禱の法は夫の火爐に投せられて異口同音の祈りをさしげ心情は於て合同したる三人の童子もこれを守りぬ言ふあり曰く「當時此の三人は一口を以てするが如く神を讚榮頌美せり」マニイ川三の五十一「彼等は一語を以てするが如く神は呼べりされば彼等の和合なる純一なる且は靈神なる祈禱は主の悦ぶ所となりぬさて主の昇天の後門徒等と共に祈禱したる使徒もこれと同様の方法を以て祈

禱したるは我等の知る所なり言ふあり曰く「彼等皆心を一にして祈禱祈願を務めたり」行傳一の十四「彼等は祈禱の熱切と相互の合同とをあらはし心を一にして祈禱を守りぬけだし」一意の者を家に入ると聖詠六十七の七の神はたゞ其の心を一にして祈禱する者を神なる永遠の家はうけ給ふなり噫至愛なる兄弟よ主の祈禱の奥妙なるといかんぞや言簡なれども精神の力は富める祈禱もこもる所のものは幾ばく多くして且幾ばく大なるや我等は共に合同して我等の父よと言ふこれ即恩寵なる神に属するの生れよよりて聖よせられ且復興せられて神の子となるを得たる信者の父と言ふ意なり」

聖金口曰く主は兄弟の爲に一般の祈禱を行ふべきを我等も教ふけ
 だし成が父よといはずして我等の父よといはばなり、これ我等は全人
 間の爲に祈禱をさすべくして決して一己の利益も着目す常も近者
 の利益の爲に勉むべきを命せらるゝなり。さてかくの如くなれば不
 和を滅し驕傲を貶し嫉妬を絶して一切の善の母たる愛を入れん、又人
 事の均一からざるを滅して王と賤者との間は大きな同敬をあらはさ
 ん、けだし最高く最緊要の事は於て我等皆悉く一様平等の關係を有て
 ばなり、けだし天の親屬もより我等みな合同せられて何人も聊他より
 大なるなく富者も貧者より大なるなく主も僕より大なるなく首長も
 屬下より大なるなく王も卒より大なるなく哲學者も野蠻人より大な

るなく智者も無學者より大なるなからん時は下賤なる族の爲に何の
 虧損のされあらん、けだし神は衆人よひとしく神を父と名づくるの實
 格を與へて此れは由り衆人よ貴族の爵を賜ひしよよる。
 福アウグスティン曰く我等といふは此言をもて世の富める者及び高名
 なる者が既よハリスティアニンとなりて貧者と傲者とも對し自慢せざ
 らんをを暗し示さるゝなり、けだし彼れ此れ同一の言をもて神を呼ん
 で我等の父よといはばなり、もし己を彼等の兄弟と自認するあらすん
 ば眞よ心よりこれをいひ出づるを能はざればなり。
 福フエオフラクト曰く汝は我が父よといはずして我等の父よといふ何
 となれば衆人を一父の子たる兄弟として視るを要するなり。

又曰く主は祈禱よ於て我が父よといはすして我等の父よといふべきを教へたりこれ汝を兄弟の愛よ勵まして衆人を總て兄弟の如く愛せしむるなり

父

ニスサの聖グリゴリー曰く大なる太陽は聖詠よ於ていへり誰か我よ鳩の如く羽翼を興ふるや聖詠五十四の七と我れ亦敢て同く言はん誰か我よ此羽翼を興ふるやとこれ我れ智識よて此言の大よして且高きよ飛揚するを得んが爲なりこれを群言すれば地をすて空間よ磅礴充滿する所の大氣を横り精氣の美を摩し星宿よ達して其一切の整裝を見るも然も是等よ支へられずこれだよ越えて此の動き易く且變ず

べき者の外よ立ち常久不易なる性を抱き動かすして自ら己れよ樹立するの力即凡て存在を有つものと凡て神の睿智の言ふ可らざる旨よかゝるものごを指導さ且支持ふるの力を曉り得んが爲なり又凡て變易すべきものと不定なるものとより遠く思離れて心靈の不變不撓なる位地よ立ち不變者及び不易者と先づ思よて親戚となるを得て其後族稱よより父よと呼びいふを得んが爲なり

聖キプリアン曰く嗚呼我等神の面前よ祈禱を行ふよあたり神を父と名づけて己を神の子と名づくるよハリストスの神子たると同様なるを我等よ許し給へる主の我等よ對する寛容は如何なるか其の優恤と仁慈の富は如何なるかもし彼は自らかくの如く祈禱するを我等よ許

さとりしならば吾人中誰も決して祈禱は於て此の名を用ふるを敢てせざりしならん。

イエルサリムの聖キリール曰く我等は救世主が門徒に授け給ひし祈禱は於て清き良心より神を父と名づけて我等の父よといふ、神のいかなる大仁慈なるや神より離れて悪の極に達したる者は神を父と名づけて我等の父よといはしむる程すべての悪を忘れて恩寵にあづかるを賜はるゝなり。

聖金口曰く「我等の父よ」嗚呼これ何等の非常なる仁慈なるや嗚呼何等の最上なる榮譽なるや我等よかくの如き善を興ふるものよいかなる言をもて感謝を報ゆるを得べきや愛する所の者よ汝と我との生身の

卑賤しきを一見して其の同族者よ注目せよ即此の土と塵埃と汚泥と粘土と灰燼とよ注目せよ何となれば我等は地より造られ終は復た崩解して地へ歸すればなり此を想ふて神の我等よ對する大仁慈の推究ひ可らざる富よ驚嘆せよ汝は彼を父と名づくるを命じ給へるよ驚嘆せよこれ即地へ属する者よ天へ属する者を死すべき者よ不死なる者を腐敗すべきものよ腐敗せざる者を一時なる者よ永遠なる者を昨日先づ汚泥たりし所の者よ世々の先きよ存在するの神を名づけて父といふべきを命じ給へるなり。

福アウグスティン曰く凡の願は先づ其の願をもて就く所の者の愛情よ訴ふるをよめ其後己の願をいひあらはすなり愛情は常よ我が願は

んど欲する所のものを讚美するをもて得らるべくして讚美は常々願
 の始よ立てらるゝなり。主も亦必ず此の旨趣よより祈禱の始に於て我
 等の父よと高く唱ふべきを我等よ命じ給ひしならん。
 神よ讚美をいひわらはす言は聖書よ多くこれあり、さりながら我等の
 父よと呼ぶべきをイスラエリよ命せられしとは見ざるなり。預言者等
 は實に神を稱してイスラエリ民の父といひ直に神の名を以てさへこ
 れをいへり、曰く『われ子をやしなひ育てしよ。彼等は我よ背けり』イサイ
 卅一の三又いへり『我もし父ならば我を敬ふと安よあるや』マラヒヤ一
 の六とされどもかくの如く稱したるは彼等罪の奴隷となりて神よ子
 たらんと欲せざりしよより彼等を證實せんが爲なるを明なり。され

ども彼等よは自ら神よ就くを父よ就くが如くなるの勇氣なかりさ。け
 だし彼等は子たるとよ預定せられたりと雖ども嗣子たる者は童蒙の
 時よ於ては僕よ異なるをなし『ガラテヤ四の一』と使徒のいひし如く彼
 等はなほ僕の位地よありたればなり。此の特權は新以色列即ハリスチ
 アニンよ賜はりぬ。彼等よは神の子となる權を興へられ『イオアンの
 十二』而して彼等は義子たるの神をうけこれよ由て、アッラ父よと呼ぶな
 り『ローマ八の十五』
 テルトリアン曰く『我等の父よ』といふは我等神よ祈禱すると共に信を
 表するなり。けだしかくの如く稱するは信の結果なればなり。けだし録
 していへるあり、曰く『彼をうけ其名を信する者よは彼れ神の子となる

權を賜へり「イオアン」一の十二「主はしばし」神を我等の父と名づけしのみならず天よ於て父を有つの外地よ於ては何者をも父と名づくべからざるをさへ誠命し給へり「マトフ」イ廿三の九かくの如くなれば我等祈禱よ於て斯の如く呼ぶは誠命を實行するなり父を神よ於て認むる者は福なり神父の名はこれより先き誰も知らされざりきこれを問ひし「モイセイ」さへも他の名をきたりきされども此名は子よりりて我等よあらはされたりけだし彼は最早神よ新なる名即父の名をかうむらしめたればなりさりながら彼は又直切よもいへり曰く「我れ父の名よよりて來れり」「イオアン」五の四十三又いへり「父よ汝の名の榮よめらばせ」「イオアン」十二の廿八而して又更よ明白よいへり「人々よ我

汝の名をあらはせり「イオアン」十七の六

聖キ「プリアン」曰く神の恩寵よより更生して神と再び合せられたる新人はまづ第一よ父よといはんとなれば最早始めて子となりたればなりいふあり曰く「彼れ己よ屬する者よ來りしよ己よ屬する者は彼をうけざりき彼をうけ其名を信する者よは神の子となる權を賜へり」「イオアン」一の十一、十二ゆゑよ信じて神の子となりし者は天よ在所の神を己の父と名づけ感謝と共に己を神の子と信認するより始めざるべからず彼は新よ生れし後まづ第一の言をもて地上肉体の父を辭して天よいます獨一の父を知り且これを有するを始めたるを證せざるべからずされば主は其福音經よ於て地よある者を父と稱ふべか

らざるを誠命し給へり何となれば我等は天にいます一の父あるのみなればなり〔マトフエイ廿三の九〕

福アウグステイン曰く我等は祈禱の始に於て我等の父よとよび此名を稱ふるをもて愛を證するなりけだし子の爲に父の名より甘美きものやある且我等は悉くの願を先だちて神を己の父と名づくる程の大なる恩恵を最早自ら受けたりと思ふや其願ふ所をうくるに於ての確信を表するなりけだし神は先づ其子に賜ふに神は子たるの權を以てせしならば何の願をかこれに拒辞まんや

又曰く汝等は神を己の父と爲すを始めしならば我等の父よといふべし汝等新に神よりて生るゝ時は彼を父と爲すを始むるなり汝等は

教會の腹より彼よりて生れたりされば父を天に於て有するを記憶せよ汝等はアダムよりて死に生れたりしも神父よりて生るゝ更に生られたるを記憶せよそもいふ所のものを其心は徹底せよ祈禱する者の心よあるものは其方よ應じて其祈禱をさく者もこれをうくるな

聖金口曰く救世主はいへりかくの如く祈禱すべし天に在す我等の父よと視よ彼は最初に神の悉くの恩恵を記念せしめたる后いかなる方法をもて聽者を直ちに勵ましたるかをけだし神を父と名づくるものは此の一名稱よて罪の赦しも罰を免るゝとも義も成聖も救贖も義子となるとも嗣業も獨一子の兄弟となるとも聖神を賜はるとも皆共に

信認するよよる何となれば此等の諸善をうけざりし者は神を父と名づくと能はざればなり故に主イエスハリストスは二つの方法をもて聽者を勵ます即名づけらるゝ者の尊貴と人々のうけたる恩惠の大なるをもて勵ますなり。

表信者聖マクシム曰く祈禱の第一の言は我等を至聖なる三者を信認するよ昇す父とは後より得られたる名よあらず却りて彼は存在し始めざりしが如く父としても存在し始めざりきされば常より存在するの彼は常より父たるならば子も亦常より彼と同存して彼より原因したるが爲に在すると高く常理の外よあるなりされども彼より原因したるが爲に彼より後より存在し始めたるよあらず故に我等は此の祈禱を始めて我

等が存在の創造的原因なる一体永存の造物主を尊崇するの心を起さん又我等は神の子よよりて我等より興へられたる權を信認すると天性よ依り我等の造物主たる者を父と稱ふるを賜はるゝとを研究せんこれ我等恩寵より己が親たる者の名よ對して尊敬を表しつゝ己の生活をもて己を生みし者の真相と其聖名とを地上よ現はすよ熱心し彼は己の父よして己は其子なるを自己の行よて示さんが爲なり且其の我等を義子の地位よ上したる者即ち天性よ依る父の子を我等思ふ所を以ても爲す所を以ても讚榮せんが爲なり。

福フエオフィラクト曰くハリストスの門徒はイオアンの門徒と相競ひていかよ祈禱すべきを學ばんを願へり救世主は門徒の願を斥けずして

彼等よ祈禱を教へ給へりいへらく「天よいます我等の父よ」と祈禱の旨
 趣も注目すべし。彼は直も汝を天よ上さんとすけだし神を父と名づく
 るよばり如何もしても父よ肖たるの像を失はず彼の如くならんとよ
 盡力すべきを汝も勤むるなり。
 又曰く父といふ言は汝が神の子となりていかなる幸福を賜はりしを
 汝も示すなり。

ソルンのシメオン曰く「我等の父よ」けだし彼は我等を無より有となり
 しめたる我等の造成者なるよよりても又我等と同様の者となり給へ
 る性のまゝなる子の爲よ恩寵よより我等の父なるよよりてもかくの
 如く名づけらるゝなり。

主教テオホン曰く「我等の父よ」てふ言よより神は「マリスタアニンの眞の
 父なる」と「彼等はマリスタアニスとイススを信するよよりて神の子なる」
 「ガラテヤ三の廿六」とを學ばん故も我等は父なる彼を望みをもて呼
 ぶ。猶肉身上的の子の其父母を呼びもろくの窮乏よ於ては彼も其手
 を伸ばすが如くせんを要す。

此呼起よりする教訓

聖キプリアン曰く至愛なる兄弟よ我等神を父と名づけて神父の爲よ
 自ら喜ぶ如く神も我等の爲よ喜ばんが爲我等神の子たる者よ於てい
 がなる行を爲すを要するか我等はこれを了解し且知らざるべからざ
 るなり我等は神の殿として我等も神の住する如く見ゆるやうよ生活

せん願くは我等の行は神と應せざるをのあらざらんとを我等は天に
 属するものとなり神に属するものとなるを始めればたい神に属す
 るものと天に属するもののみを思ひ且行ひて神のいはれしに注目せ
 ん曰く「我を頌讚するものを頌讚し我を輕んずるものは辱められん」列
 王記第一の一の三十一又福なる使徒が其書に於てしるせるに注目せん曰
 く「爾曹の身は爾曹神よりうけたる爾曹の衷に居る聖神の殿にして爾
 曹は爾曹の属にあらざるを知らざるか故に爾曹は身を以ても靈を
 以ても神の榮を顯すべし」コリント前六の十九、二十一
 三、サの聖グリゴリー曰く父よと發言する者よいかなる心神を要す
 るか幾ばくの勇氣を要するか又我等は出来るだけ神を認識して神の

性は慈善なり喜樂なり有能なり光榮なり清淨なり及びすべてこれと
 同様神の性よつきて思ふあらはるゝ所のものなりと瞭解して其後最
 早敢て此言を發しかくの如き實體をもて己の父と稱ふるを得んが爲
 んはいかなる良心を有すべきかもし誰か幾分なりとも智慧を有する
 者たらんは神にある所のもの己れも同くこれを知るを見出すと
 なしよ神に對して此言を發し父よといふを敢てせざらんと疑なきな
 りけだし本体に於て善なる者よして行ふに於て惡なる者の父となり聖
 なる者よして生行の汚されたる者の父となり生命の父よして罪よよ
 りて殺されたる者の父となり清き者よして汚辱の愆よ身を汚したる
 者の父とならんことは自然に戻ればなりもし誰か己を潔うするよな

は必要の有るを見て其の悪なる良心はなほ汚穢を充たせるを認むるもかゝる悪性質を潔うする先き自ら神と親類となり不義者として義者として不潔者として深者として對し父よといふならば此言は直ちとを凌辱となり悪言とならん故に主が祈禱に於て神を父と名づくべきとを吾人よ教ふるは意ふ其爲す所を高尙しし天に属する生活の状を立てし法となさしむるに外ならざるなり何となれば眞實は我等よ妄語すべからざるると我等よ無き所のものを己の爲と言ふ可らざることよ我等が有せざる所のものをもて己を名づく可らざることを教へ反りて義なる者及善なる者を己の父と名づけて此の近親たる關係を生活よて表すべきとを教ふればなり此よ由て見れば神よつけて父

よといふの勇氣を得んが爲よいかなる生活は我等よ要用なるかけたしもし汝は金錢を愛し世の誘惑は累はされ人間の榮譽を求め大に多慾なる望みの爲よ役々としてつかはるる口よかくの如き祈禱を唱ふるならば思ふよ汝の生活を見て祈禱をさく所の者はこれよ何をづけんとするか視よ神が自らかくの如き人よつぐる左の如き言を余はさくあらん曰く生活よ於て腐敗したる汝も腐敗せざるの父を己の父と名づくるか何の爲よ汝は不潔なる口をもて清き名を汚すか何の爲よ詐りて此言を用ふるかもし汝は我の子ならば汝の生活は我が性質の状をこそ己れよ負ふべけれ余は我が性狀を汝よ於て認めず汝の性質は反對なり汝よ有る悪性質の父は他よあるあり我か子孫は善なる

父の性質をもて飾らるべく慈悲者の子は慈悲なるべく清き者の子は清く腐敗せざる者の子は腐敗遠ざかるべく善なる者の子は善なる者の子は正しかるべし。ア、我れ汝の何處よりするを知らず。故に祈禱よ於て神即我等の父といふべきを制定めたるは他よあらず殊勝の生活をもて天の父よ肖んとを命するなり。此事は同く亦他の處に於ても更よ明白よ命せられたり、いはく「純全なると汝の天父の純全なるが如くなるべし」マトフイ五の四十八、神よ肖たる徴候の判然なるが如く悪者の性質よもこれよ属する一種特別の徴候あり、これを有するものは神の子となるをあたはず、これ即嫉妬、怨恨、讒言、高慢、貪利、慾望、名利よ狂奔する疾の如き是なり、敵の性状は此等又は大略これよ類するの

性質をもて殊別らるゝなり、故よもしかくの如き汚穢をもて己が靈魂を汚し、者よして父を呼ばんよはこれをさくはいかなる父なるべきか、願くはかくの如き不潔は汝の性状より遠ざからんとを、神性は嫉妬及び他のものろくの汚穢とは相あつからざるなり、さればかくの如くなる欲の汚點を汝の身よ置くなかれ、即嫉妬も高慢も其他神よ肖たるの美を汚すべきいかなるものをも置くなかれ、もし汝はかくの如き者となるを得ば敢て神を呼ぶべく萬物の主宰をもて己の父と名づくべし。さらば彼は父たる慈眼をもて汝を見るべくして汝よ被ふらしむるよ神なる衣服を以てし指環をもて汝を飾り高きよ進行するが爲汝の足よ福音の履を給して汝を天の本國よ歸らしめん。

聖金口曰く汝が此言我等の父よといふ言を唱ふるを教へらるゝは徒然なるよあらず、これ汝己の舌よて言出づる所の父の名よ對し樂教を表して其の仁慈よ法ると他の處よ於て主のいへる如くせんが爲なり、其言よ曰く天よいませ汝等の父よ育るべし、彼は其日を惡者と善者の上よ照し雨を義者と不義者の上よ降す、マトフ、イ五の四十五、故よ兇猛殘忍なる心地を有つ者は仁慈の神を己の父と名づくとあたはず、何となれば彼は天の父よある所の仁慈の性質を有たずして獸類の狀よ變じ神與の貴きを失ひたればなり、されば近者よ接するよ溫良仁慈よして己れよ對して罪を行ふ者よ報いす却て侮りよ報ゆるよ恩を以てする者は無玷はして神を父と名づくとを得ん、そも主は吾人よ相互

の愛をいかに命じたるか、慇懃なる心情をもて衆人を合一ならしむるをいかに言顯したるか、言の精密なるを察るべし、彼は天よいませ吾が父よといはずして天よいませ我等の父よといふ、これ我等一般の父と呼ぶを學びて互よ兄弟の情をあらはさんが爲なり、主教ティホン曰く我等の父よと呼ぶよより我等の學ぶべきものは左の如し、第一悉くの「ハリステアニン」の爲よ父は一なり、即神なり、故よ彼等は一の父を有するよより互よ兄弟なること是なり、故を以て第二「ハリステアニン」は神兄弟なるよより互よ愛を有ちて彼れ此れ互よ神よ祈禱すべく、其の在天の父よ向て恰も心より一の聲を發するが如く我等の父よといふべし、聖金口は此言よつき話説していへらく、此をもて兄

弟の爲に一般なる公禱を行ふべきを教ふけだし我が父よといはずして我等の父よといへばなり、これ一般の体の爲に祈禱をさへぐるものとしてただ己の益を見ず何處にも近者の益に注目するなり、第三、ハリステアニンは神よよりて兄弟なる時はこれより皆同一の尊敬と名譽とを有するなり、昔とは主人も僕も高名なる者も高名ならざる者も富者も貧者も貴者も賤者も皆兄弟なるをいふ、故に彼等は互に輕蔑すべからずして、ハリステアニスよよりて皆一たるなり、ガラタイヤ三の廿八、聖金口は此處に於ていふあり、曰くかくの如く不平等は我等は消盡きて大なる王も貧者と同敬をあらはす、第四、もし神はハリステアニンの父たるならば、ハリステアニンは戦々兢兢々として罪を用心す

べし、まして良心の責むるなし、神を呼びて父と名づけんと欲する時は良善なる品行をもて神よ背んを要すると子の其父に於るが如くすべし、第五、此よよりて見れば懶惰なるハリステアニンは己を修め眞の痛悔をもて己を潔うせざる間は神を呼んで己を益すると能はず、まして神を父と名づけて此祈禱をいふとは能はざるなり、彼はかならず罪と肉体の慾を棄て悔改めて使徒の教よいふ如く不義より離るべし、曰く凡そ主の名を呼ぶ者は不義より離るべし、テモフニ後書二の十九、けだし神よ對し我等の父よといひ得るも自ら其の品行に於ては畜類よ將た魔鬼よだも似る可んや、けだし神を父と稱してかくの如く我等の父よと祈禱する所の者は神の子とならずんばあるべからずして子

父は父より有たる性質なくんばあるべからざればなり故にかならず放
 蕩の子の如く我より歸り驟然悟覺して父の許に歸り來り其前より謙遜し
 て己の罪を認むべきなり曰く父よ我れ天と汝の前より罪を獲たり最早
 汝の子と稱さるゝに堪へず」とルカ十五の十七―廿一されば向後必ず
 天の父より分離れず清き心をもて彼より事へて其の一家即眞實のハリ
 ステアミンと互に關係を相爲しかくて彼等と共に此の一般の聲を彼
 一對して發せん曰く我等の父よ。
 輯釋者曰く我等の父よ、これ何等の甘美なる呼聲なるか父といふ
 名は温よして且清し父ある者は全く安然よして防護らるゝ有力なる
 翼下よあるを自ら感ずるなり且彼は何の爲よも安んぜずして心配す

るの要無きを覺え食物も衣服も家屋もすべて具りて欲する所あるや
 父に向へばすべてをうくべきを覺ゆるなり。
 さて神を己の父と認め且感ずるを能くする者の心情は此の如しもし
 誰か神は己の父なりてふ確信の生ずるあらば直ちよ子の父よ對して
 通常有つ所の感情も其心よ樹立せんされば彼は安然なる屋中よあり
 て心配無きの充足と堅き希望とよより適當なるものを願へば何論
 なくすべてなるべきを自ら覺えんとす。
 これぞすべての旨趣のある所なる神は我等の父たりとの感情までよ
 登るべし。いかんして登るべきか我等よこの感情を建つるは神意よ適
 ん所以を明よするを以てすべし。神は我等の爲よ如何なるものたるよ

を熟思すべし、さらば必ず達せん。第一神は我等の父たるは天然の秩序に依るべし、彼は人を造りて其面はその生氣を嘘入れたればなり。此の氣は肉に属するものならず、神に属するものにして、此氣は悉くの人類を生々せしめてやまず、されば神は属する者の人々存するの跡は消滅すべからざるなり、かくの如くなれば我等は天性に依り神と親屬たるなり。此意思は抽象的なものといへども、一般の感情より遠かりざるなり。聖パウロもアフィン人を瞭解せしめんが爲に、此の意思を利用するに躊躇せざりし、彼はアフィン人は蓋我族は其族なり』といへる。一時人の言を記念せしむるのみならず、此言は、大に勧誘的結論を爲していへらく、故に我等は神の族なり云々を行

得十七の廿八丸さればすべての人も此の如き自信に達するを得べし。否、此の自信を達し己れは回復して、其後己の心中に於て我等は神の族なりといふを得べし。汝は己を神の親屬たりと感ずるを得て、彼を先祖となし、衆人一般の父と爲すを得べく、且かく爲さるべからざるなり。第二神は我等の父たるは我等を慮るの照管に依るべし、我等を造りて其の右の手にて守り、且扶持け導きて終りに至らしめ、種々の照慮をもて我等を繞ぐるを所生の父より勝ればなり。故に總て衆人を慮るのみならず、汝自己をも慮る所の神の照管を親且感ずるに達すべし。其時は圖らず呼んで我等の父よといはん

されどいかよして此れは達するを得べきか沈思熟考を以て達するを得ん凡て神が人間の爲に爲し、所のものを自由な深思熟考し且これを討究すべし即我等を地堂に入れて福樂に居らしめたるが如き我等を墮落は捨置かずして失ひしものを再び我等は回復する方法を慮りしが如き其後我等を導きて回復者をうけしむるは最初は衆人を一様よみちびき次は個々よみちびく即或は獨り猶太人をみちびき或は獨り他の異邦民をみちびきしが如き終りよ此の回復者が來りて回復の功を成就したるが如き其后此の回復の功を我等諸族の有となりしめたる事の如き此時は當り神は全民族を眷みて各個各人の數ふ可らざる多きを誘引したるが如き我が民を眷み之は於て回復したる力を

固く守るが如き是なりもし神の照管の更し每人よ分れたる働を見んと欲せばアウラムイオシフイオフダウイドモゼキヤ及ひ其他の人々の歴史を討究せよ又我が國の歴史と其の高名なる人々を一見すべし亦て此等を見れば神の我等を多く思ひ多く慮る所以を發見せざると能はざるなりさらば彼は我等の族の父よあらずや
 其后轉じて自己を回思してすべて汝と共にありし所のものを討究すべしさらば汝は災難と陷墜とより救はれたる神のしばしなる救護を聖生の間よ於て神の右手をもて導かれたる一種特別なる恩恵の指導を發見せん神の隱密なる恩恵は顯然たるものよりも更し大なりその隱密なるは蓋し與へらるる時は見得ずして後よ至りて顯はる

ればなり而してそは觸覺ゆる程に顯然明白なるありかくの如く其時
 に見得ずして後に至りて寤はるゝ神の照管を瞭解熟視するはたとへ
 我等定めてそれと指示すとわたしはすといへども現時に於ても神は我
 等の存在と安寧とを懇に計るゝの自信を我等に與ふるなり此よりし
 て神の目は善慮をもて我等を眷み神の右の手は我等を扶持ち且庇護
 且誘導さて我等が生命の進行を善良の途に向はしむるとの自信を
 我等は吹聴せざる能はざるなり此を感ずる時は心は自ら禁むる能
 はずして我等の父よといはんとなす
 第三神は我等の父たるは心靈上更生の旨趣による此よつきて神は我
 等の父なりてふ感情の我等のクリスタアニシテ少なき否全くこれ無き

は驚かざるわたしはす此の感情はこれを製造するゝ特別盡力するなき
 もハリスアスアスニシテハハのづから其心よあるべきなりけだし彼等は神
 よよめて生れたればなり聖なる福音者イオアソフ書していはく彼即人
 体を藉るゝ由りて己れに属する者よ來れる神言をうけ其名を信せし
 者は神の子となる權を賜へりこれ血氣よ由るゝあらず情慾よよる
 よあらず人意よよるゝあらずたゞ神よよりて生れし者なりイオアソフ
 書の十二十三にて此の生れしは何の時なりしや信じて洗禮をうけし
 時なりけだし洗禮に於ては水と聖神とよより生るればなりされば此
 の方法よよりて生れざる者は人体を藉れる神の子の公然と示され
 たる神よ子たるの權を有する能はざるなりかくの如くなれば我等は

靈は於て神の生む所となりつゝ、靈をもて此を感じて靈は於て神を己
 の父と爲すべし、こは熟考をもてこれに達するはあらず直切にこれを
 感じて達するなり、
 さりながら此の感情の弱り或は全くこれ無きは何故なるかこれ神よ
 り生まる人ももて我等を立たしむる情況の成は全く散じ又は變じ或
 は弱るはると意ふべし此の情況なきか神は子たるると神の父たる
 きの感情もあらざるなり、
 さちはいかほすべきか更生の情況を力に應じて回復すべし其時は神
 の父たるとの感情も回復されんされどもとはいかんして回復すべき
 か

こよ一の熟考のみよては足らざるなり神より生れしよより我等の
 心あるべきと此のすべてが如何に行はれしとを熟考するは
 たゞそれと達するの門戸たるべきのみ、靈生の後汝の如何あるべか
 りしを分析するを始め而してこれを汝が實際に有つ所のものと對照
 すべきさらば汝は甲と乙との間、大に撞着して合はざるものあるを
 發見せん、而してこの不合は汝がリスニアニたる者の良心と神と神
 使との前、於て大なる譴責を汝の上、落來らしむべし、譴責は定罪を
 引き定罪に従て罰あるべし、此等の意思即此の眞實にして易らざる事
 實を證示するの意思を深く考ふべし、さらば汝は戰慄せん、既に戰慄せ
 ば汝は待つ所の糺問をいかよして避くべきかを掛念せん、此よりして

痛悔と又神より生るゝは應じて己を操持る他の決心を生ずるなり。痛悔の機密は於て更生の恩寵は回復さる否其の恩寵の働は心は於て再び清めらるゝなり。こゝに神の父たるもの感情も亦直に生じ来るべし。この感情は凡て眞實に悔ゆる者等に於て必ず起るなり。彼等既に神みどうけ若くはこれを感じば父の慈懷を感じざる能はざるを放蕩の子の譬といふが如くなるべし。されども其後此の感情は過去らん父の家は或は僕或は雇人の勞働のあるあり勞働は恒なるをもて此の階級を経過する者は終に子の位に入るべし。其時は神の父たるもの感情も其人の心の深きよ起るべくして此感情は最早彼に離れずしに常在るべし。

七求望

聖金口曰く主イエスは我等義子となりしより貴族たるの事と此の最高上なる賜の事と兄弟の間尊敬の一なる事と愛の事とを憶はしめて聽者を地より引出し天上に立たしめたる后終に何を祈禱するを命ずるか我等これを一見せん。神を父と名づくるはもろくの徳行に對する充分の教導も其中に包含むと固よりなりけだし神を父と名づけ一般の父と名づくる者はかならず此の貴族たるに應せざるものとはならずして其賜はひとしき熱心をあらはせんやうに生活すべければなり。然れども救世主は此の名稱にて足れりせず添ふるに他の開言を以てし給へり。

ニ「イスラの聖」グリゴリイ曰く律法は「將に來らんとする福事の影にして」
 「エウレイ十の一」或る先見預表をもて眞實を豫報する所のものなり、神
 は祈禱を献ぐるが爲に司祭を聖所に入らしむる時は先づ第一に或る
 洗淨の祭と酒水をもて入者を清むるなり、其后金と濃紫と他の花卉
 の染料とをもて極めて美麗に造れる斑爛たる司祭服にてこれを飾り、
 胸飾と頭飾とを彼れに加へ、服の縁は鈴と扣鈕とを掛飾り肩に上衣
 を縫合し頭を冕旒にて飾り髪は膏を豊ふそゞぎて終に彼れを聖所
 に入らしめ奥密なる聖務を行はしむるなり。
 然れども神は屬する立法者我等が主イエスキリストは律法の有
 形なる覆を去りて裸体となし預象の奥妙なる旨趣を判然明白ならし

めてまづ第一に全民の中より一人を選ひこれをして入りて神と談話
 を爲さしむるのみならず其望む者の前は神品の一般なる恩寵を具へ
 てすべての人よひとしく此の尊位を賜ふなり、其后司祭は精好の美を
 加ふるは或る染料又は織工の考に成れる所のものより借來る裝飾は
 はあらずして彼は固有本來なる飾りを被らしめ種々飾れる斑爛た
 る衣服は易るは徳行の華なる歡悦を以てし胸は飾るに地の黄金を
 以てせず無玷潔白なる良心を以てして心は美を添ふるなり、さて冕は
 これに適應せしむるに貴重なる寶石の光の燦爛たるを以てす、使徒の
 意見は依るに聖なる諸誠の光明といへるものは是なり、然り而して下部
 は袈裟にて固めこれをもて飾りとなす、さて此の部分の飾りはこれ即

貞潔の覆ひなるを知らずんばあるべからざると無論なり、生活の飾り
 は神鈴と扣鈕と花卉とを掛けたり（出埃及記廿八の三十四）さりなが
 ら或人此を道德上の生活に於て見ゆる所のものを指すといへるは當
 然なり、これ此の生命の経過をして光榮なるものとならしめんが爲な
 り、故に此の飾り附くるは鈴も易へて信仰の好香なる言を以てし而し
 て扣鈕も易ふるは將來の希望も對し粗大さ生活も蓋はれて見る可
 らざる準備を爲すを以てし花卉も易ふるは地堂の徳行の美しさを
 以てするなり、此の如くして司祭を聖所及び殿の内部に入らしむるな
 り、さりながら此の聖所は不活不靈のものゝあらず又手造のものゝも
 あらずして實に邪惡の爲に透見すべからず惡しき思念の近づき易か

らざるもの即我等の心の密室といへる是なり、頭は飾るゝ天に属する
 の智慧を以てす、即金版も鑲めたる文字の象りゝはあらずして主權を
 有するの智識も神を直寫したるなり、而して頭髮も己が心中内部に
 於て徳行より製成されたる膏をそゝぐなり、さて此の如く司祭をして
 奥密なる聖務を行ひ芳香をもて祭を神に献ぐるゝ備へしむるは或る
 他の祭を献げしむるゝはあらずして自ら己を献げしむるなり、此の如
 く主よりて此の神品も昇されたる者は「聖神の劔即神の言」エフェス六
 の十七をもて肉体の偽智を殺し其後聖所も止まりて自ら己を献げ「己
 の身をもて神に悦はるゝ聖なる活祭となし」ローマ十二の「かくの如
 き祭物をもて神を和ぐるなり」。

己を献ぐる者はいかゞ自ら己を準備するを要するかは右に攻究したる言にて最早充分にあらはしぬればこれより聖所の内部に止まる者よいかなる求望を神に献ぐべきを主は命せしか其事を研究せん

第一求望

汝の名は聖とせられ

ニスサの聖グリコリイ曰く按ずるに此の祈禱の言は一見したる所にては單純なる如くなれども解し易きの義を我等と與へざるなり願くは汝の名は聖とせられ此言は我等の需要よいか機關係するかとはこれ他の或は罪の爲に悔改めて己を罰するの人或は己に對して起りたる罪より逃れんが爲に神の助けを呼び隨て常に神の目前に於て敵と

戦ふ人のいふ所なり此處には激怒をもて智慧の整然たる状況を失はしむるあれば彼處には宜きと合はざるものを願ふよりて靈魂の力を弱らすあり又或る時は貪慾高慢驕傲嫉妬及び其他の我等に抵敵する者の群は心の眼の瑩々なるを蔽ひ昧まし恰も四方を攻圍む敵勢の如く靈魂を危きと擠陥るゝあるなり神の助けにより此等の惡より救はれんとを心掛くる者は如何なる言を用ひて最益あるべきかこれは大なる太閤の用ひたる言にあらすや曰く我を嫉む者より救はるゝを得しめ給へ聖詠六十八の十五又曰く願くは我が敵は退けられん同上三十四の四又曰く患難に於て我に助けを與へ給へ同上五十九の十三これ等の言及び其他これと同様敵に對して神の助力を起すを得べき

ものよ非ずして何ぞや然れども今や祈禱の法は何と言ふか曰く願くは汝の名は聖とせられもし我れこれをいふわらずんば神の名は聖なるものとならざるべきかされども神の名は常と聖としてすべて於て乏しからざる完全なる者は其聖徳を加ふるの要あらずんば汝の名は聖とせられてふ言をもて祈禱は何を言ひわらはすか

聖キプリアンはこれに答ふるに次の如し曰く願くは汝の名は聖とせられ我等のかく言ふは我等の祈禱より神の聖とせられん爲し我等これを神と願ふとの義はあらずこれたゞ神の名の我等に於て聖とせられんが爲し神と願ふなりけだし自ら一切を聖とするの神は誰よりて聖とせらるべきか

テルトリアンは又これに加へていへると次の如し曰く我等が此の如く祈禱するは神よなほ望むを得べき所あるものゝ如くもし我等神よ善を望むわらずんば神は缺乏する所あるべきより神よ善を望むは人々よ當然なりといふよはあらざるなりざりながら我等は何れの處に於てもいつれの時よ於ても常と神の我等に於る大なる恩恵を憶ふて神を讃揚ぐる聖詠百二の廿二は我等に當然なるより此言汝の名は聖とせられといふ言はこゝにては讃揚といふ言は代用するなり願くは讃揚げられんといふ言は代用するなり加之神の名は何の時よか自ら聖ならざる何の時よか自ら聖とせられざる又何の時よか彼は自ら己れよよりて衆人を聖とせざるされども彼を環立る所の神使の

群は不斷^{つた}呼んで『聖なるかな聖なるかな聖なるかな』^{イサイヤ六の三}
 黙示録四の八といふより神使の品位の候補者たる我等も今后なほ
 彼等と同じく天上の聲を神よさしぐるを學び此處に於てなほ將來の
 凱歌を唱ふを習はん。されば此處に於て第一の義は神を榮するに
 あり。

聖金口曰く『願くは汝の名は聖とせられ』是れ恩寵よりて神の義子と
 せられたる者の祈禱に於ていふ言なり。天の父を榮するの先は何も
 願ふべからずしてすべてを彼を讚美するより下く思ふべし。これを神
 を父と名づくる者、當然の祈禱なる神はすべての尊嚴を充て、永久
 に易はらざる自己の榮を有するなり。これを直視してセラフムは神を

讚揚し呼んで『聖なるかな聖なるかな聖なるかな』^{イサイヤ六の三}とい
 ふなり。

又曰く『汝の名は聖とせられ』との言より神が聖徳を加へらるゝ如く
 思ふ無思慮なる考は何人も有たざるべし。彼は聖なり且至聖としてあ
 らゆる聖者よりも聖なり。セラフムも彼は聖歌をさしげ不斷に呼んで
 いへり曰く『聖なるかな聖なるかな聖なるかな』^{サワオフ}汝の光榮は天
 地に充つ。『^{イサイヤ六の三}王は頌美をさしげて彼を王又は獨裁者と名
 づくる所の者は其の有らざる所のものを彼れに與ふるよはあらずし
 て有る所のものを讚揚ぐるなり、かくの如く我等も』願くは汝の名は聖
 とせられ』といふは有らざる所の聖徳を神に付與ふるよはあらずして

有る所のものを讃揚ぐるなりけだしこゝ願くは聖とせられんとは願くは讃揚げられんといふは代用するなり。

聖カシアン曰く我等はかくの如く高貴なる神の子の品位は達したれば善良なる子に相應するの愛よて奮然せざるあたはず此の愛は我等はすべて己の益を求めずして我等の父の榮を求めしむるなり故に願くは汝の名は聖とせられといふはこれ我等の待望と我等の喜悅とは我等の父を榮するよあるを願して左の如くいひし者の言は従ふなり曰く彼を遣はしし者の榮を求むる者はこれ眞なるものよして其裏は不義なしイオアン七の十八

主教ナイホン曰く願くは汝の名は聖とせられんとはこれ即汝の名は榮

せられんといふは同じと金口はいへり是れ我等に神の榮を求むるのみよして他は何物も求めざるやうよこの義を示す金口言へらく神を父と稱ふる者の祈禱は神の榮を願ふの先きよは何も願ふあらずして神を頌美するをすべての事より貴するよあるは當然なり神の名は我等の讃揚をまたずして聖なり且榮なりされども我等は其名の我等は於ても榮せられんが爲に盡力せざるべからざるなり。 輯釋者曰く願くは聖とせられといふ言は於て第二の義は願くは恭しく尊崇せられんといふ是なりけだし聖なる所のものは我等尊敬を盡してこれを繞り常よ其前よ虔恭して當然の畏れをもてこれに對するよよる願くは汝の名は聖とせられとは汝を畏るゝの畏れを汝を敬ふ我

等の心は植付け給へといふは同じとてこれを祈禱の第一の場所と立つるは此求望は適當するなりけだし神をおそるゝ敬虔なる畏れは神は属するの智慧と神は悦ばるゝ生活の泉なればなり此の畏れを有する者は誘導者と奨励者と救済者とを有す此の畏れのある間は靈魂はもろくの罪に對しても又もろくの善に向つても破られざる力に充たざるゝなりかくの如く此の畏れは神に属する生活に於て第一のものなるより第一の祈禱も亦此の畏れにあり。

福アウグスティン曰く祈願をもて向ふ所の者は誰として彼は何處にましますか此事は既にいへり天に在ます我等の父といふ言に於て今や我等は彼に何を祈るを要するかこれを一見せん凡て請願する箇條の

中、於て第一は「汝の名は聖とせられ」といふはあり此を願ふは神の名の聖ならざるありといふ旨趣にて願ふはわらず其名の人々、於て聖なるものとせられんが爲に願ふなりこれ即神が人々の知る所となりて人々他の或物を神の名よりも尙聖なるものとして尊敬するとのあらざらん爲及び他の或物を辱かしむるを神の名と辱かしむるより尙畏るゝが如きとのあらざらん爲なり「神はイウテヤに知られ其名はイブライリに大なり」聖詠七十五の「といふも此言と同様にて神は甲處にては少しく大にして乙處にては更に大なりといふやうに了解すべからずこれ神の名は其威徳の大なるよしたがい其の稱へらるゝ處に於て大なりとの義なりかくの如くなれば神の名は崇敬と彼を辱しむ

るを畏るゝの畏れとをもて稱へらるゝ處に於て聖なるものとして稱へらるゝなり
 又曰く神の名の聖とせられんを願ふは何の爲か彼は聖なりされば既に聖なるものゝ聖とせられんを願ふは何故なるか加之彼の名の聖とせられんを願ふは彼の爲に願ふよて己の爲に願ふよはあらざる無きかどされども己の爲に願ふものなるを理會せよ當然に言意を理會せよさらば汝はこれを見んげだしは常より自ら聖なる所のものが汝に於て聖とせられんを願ふなり願ふは聖とせられんとは如何なる義か願ふは聖なるものとせられ願ふは輕視せられざらんとなり今や汝のこれを願ふは己の爲に善を願ふ所以なるを見るかけだし神の

名を輕んずる時は神の爲よはあらで汝の爲よ滅亡なるよよる。

又曰く「願ふは汝の名は聖とせられ」我等のかく言ふは常より自ら聖なる所の彼の名が人々よ於ても聖なるものとせられんこと即輕んせられざらんことを願ひ且求むるよ自ら己を勧誘するなり、これは神の爲よ要用なるよはあらで人々の爲よ救なるなり。

輯釋者曰く此の二義の増補としてこれよ左の二義を加ふべし。

第一。言盡すべからざる神の至全至備なると其の大なるとは我等の理會の量よ超越る不偏なる公義及び審判と共に我等の認識する所となる時は神の名は讃揚せられ虔恭よして尊崇せらるゝなり神の啓示の導きよより一己の默想を以ても此認識よ達し到るを得んされば謙

遜なる思神者は或は其完全に於て大に奇異なる神に讃榮を歸するを以ても或は其の圍むべからざる大徳と其の畏るべき公義と不偏なる審判とを想像するより畏懼戰慄して其前より俯伏するを以ても神を思ふの思想を繋ぎあはせざるをあたはざるなりされども讃榮と崇敬とがあらはるゝ此の如き現象は神の性質と大徳とを了解するの量より出づるものにして自ら此量より高くは昇らず神の量を距ると遙に遠し加之此等の現象は智より心を壓するよりありはるゝものなるが故表面的なり然れども眞實の讃榮と崇敬とは智をしてたゞ驚嘆せしむるのみよて心より噴出づこれ神の恩寵の働きよりて生出さるゝなり。恩寵は主の幾ばく善よして幾ばく大なるを心よ味へしむよりて智は

心よ入りて此を直覺すされば其時眞實の讃榮と崇敬とは心の深きよ起るべくして其の一たび固く立ちしものは永く其者より離れ去らざらんされば視よ汝の名は聖とせられといへる祈禱の言は此恩寵の働きをいふなり主よ我等の讃榮と崇敬とはたゞ聊たりとも汝の量に近似からんが爲及び我等の内部に植付て我等より永く離れ去らざらんが爲よ汝の恩寵をもて我等の心よは汝の幾ばく善なると奇異なると大なるを味へしめ給へ又我等の智識よは入りて此を直覺するを得しめ給へ主が願くは聖とせられといふべきを命じて我等のこれを聖とするやうよといふべきを命せざるは是れ即恩寵に属するの讃榮と神をおそるゝ畏れとは生じ來るや彼自身に働きを作して我等の

心霊はたゞ其の生ずる所のものを認識しそを味ふる者となりて存するのみなればなり。

第二〇願くは汝の名は衆人ニ讃揚せられ恭しく尊崇せられん此事を祈る者はこれニ對する自己の本分を認識して自ら神を讃榮し其前ニ崇拜すると無論なるべし子も天然ニ父を尊び且讃せん然れども父ニ對する子の愛は子をしてたゞ其父を其の周圍ニ於てのみ讃榮尊敬するをもて足れりとせず衆人ニ讃榮尊敬せられんことを願ひ且求めしむるなり神ニ對しても亦その如くなるべし神を己の父と名づくる者はたゞ其の自己の讃揚と尊崇とをもて足れりとするあたはず人皆彼を讃榮して其前ニ崇拜せんことを願ふなり此事は神の啓示の弘布する

ニ頼り神を識る眞の認識の傳播するを以てするの外成就せらるゝ能はざるものなるより人皆神即我等の父を讃榮崇拜するやうよどの願ふ於ては神の福音のひろまりて其名の人々ニ識られんことを願ふの願ひも自然ニあらはれざる能はざるなりけだし我等は僅ニ彼を識るや最早讃榮せざるを能はざるべく又其前ニ崇拜せざるを能はざるべしけだし我等の神は此の如き者なればなり福音ニ願くは聖とせられといへる言中ニ願くは神の名の恭しく尊崇せらるゝやうよどの願も含有するの義をあらはしこれニ添て此事は今日万民ニ知らざるゝ福音はこれを成就すといへり又聖なるカシアンは前文ニ引用したる天父ニ對するの愛ニ感動せらるゝ子輩より天父の榮を求む

るを願ふの説教をなし、後これに加へて次の如くいへり、曰く、選器は此の感情の充たす所となりてたハリストスの爲は多数の家族を得て全イズライリの救を其父を榮するは合併せんが爲はハリストスより絶たれんと、ローマ九の三を願へり、又ネルトリアンも同様の義をあらはして曰く、神の名は最早これを己れに認めたる我等に於てのみ聖とせられずして他の神の恩寵を待つ所の人々も於ても聖とせられんが爲は祈禱せん、我等は衆人の爲は且は我等が敵の爲はさへ祈禱する、トフェイ五の四十四を我等に命じたる誠命は服従せん、我等は神の名のたいは我等に於て聖とせらるるやうよといはすして衆人に於ても同く聖とせらるるやうよといふなり、かくの如く願くは聖とせられど祈

禱して神を識る眞の認識の全人間に弘まらんを願ふはこれ其の悉くの人類より神の一家の組織せられて神を己の父と名づけ彼を讃榮して恭しく尊崇するあらんが爲なり、
 第三の意義のあり、これ即願くは聖とせられどと言ふ於てこれより先はあらはしたる二意義の如く増補として認むべく又は祈禱の直接の意義として見るべきもの、神は吾人の生活にて讃揚げられんといふものは是なり、すべて聖なる師父等は特に此の意義を訓諭す、
 聖カシアン曰く、汝の名は聖とせられどいへる言は當然は左の義をも生ずべし、即神の聖なるとは我等の完全なるとなりといふ是なり、故に我等父よつげて汝の名は聖とせられどいふは恰も左の如くいふもの

如し、曰く「父よ我等をして汝の聖徳の大なるを瞭解せしめ或はこれを
 をうくるは堪ふるものとならしめ給へ或はこれを詳言すれば願くは
 汝の聖なるとは我等が神に属する生活に於てあらはれん」とされ此
 はたゞ人々「我等の善行を見て天よいます我等の父を榮する」時、實際
 成就せらるゝなり、マテ、イ五の十六、
 聖キプリアン曰く「けだし神は我れ聖なる如く汝等も聖なるべし」ペト
 ル前書一の十五との給ひしより洗禮よりて聖とせられたる我等
 は其の始めたるごとくこれを守るとを願ひ且祈らんされば我等は日
 々の罪を不斷の成聖をもて深めん爲し日々成聖に必要を有するよ
 より此事を日々祈禱せんさて恩寵よりて神より我等に賜はるゝ

成聖とは如何なるものか使徒は此を説明していへらく「凡て淫を行ひ
 又は偶像ををがみ又は姦淫をなし又は男娼となり又は男色を行ひ又
 は盜竊又は貪婪又は沈湎又は辱罵又は勒索者は神の國を嗣ぐを得ざ
 るなり汝等の中前よは此の如き者ありしかども我等の主イエスハ
 リストスの名と我が神の神とをもて洗滌はれ成聖られ且義とせられ
 たり」コリンフ前六の九——十二使徒は我等を名づけて「イエスハ
 リストスの名と我が神の神とをもて聖とせられしものといふされば我
 等はかくの如き成聖の我等より守らるゝことを祈らんけだし主及び我
 等の裁判者は既に愈されて快復を得たりし者より再び罪を犯さざらん
 事を命じて先よりも尙あしくならざらんやうよと囁し誠り給ひしよ

より「イオン」五の十四神の恩寵よりて我等のうけたる成聖と回復
とは神の保護より我等を守られん爲に間斷なく祈禱し且嘆願して
日夜これを請求せん。

ニッサの聖グロコリイ曰く惟ふは聖書は祈禱に託て左の事を吾人に
教ふるはあらざるか何ぞや人性はある良善なるものを得んが爲に薄
弱なり故に何等かの善事を心懸るとも神の助けの我等に於てこれを
成就せしむるあらずんば我等はこれに達せざらん。さて我が爲にあら
ゆる善福の中第一首要なるものは神の名の我等が生活よりて讃揚
げらるゝにあり。
さて此の旨趣はこれと反對なるものを預想するより我等の爲に更

は明白となるなり。余は聖書に於て神を褻瀆すの原因者となりし者を
罪に定るを見るにけだしいへらく禍なるかな。彼等の爲めは神の名は異
邦民に褻瀆さる」と「イサイヤ五十二の五」是れ言ふ意はいまだ真理の言
を信せざる者は既に奥義(福音)の「於て信仰をうけたる者の素行を熱
視す故に或者は信仰の名「ハリステイア」を己れに負ふも其素行は名
と相反して或は貪慾を事とし或は酒に酔ひ狼り、宴飲し或は豚の如
く放蕩の泥中に轉ぶあらんは不信者は直ちこれに批評を下して
其生活を妄にするもの、自由をば罪せず却て奥義(福音)即基督教を罪
して奥義をかくの如く教ふるもの、如くよいひなし神の奥義に献身
せらるる人として罪を行ふを許されざりしならば或は悪言する者とな

り或は貪婪なるものとなり或は盜賊となり或は他のいかなる邪惡より従ふ者となるが如きとはこれ無るべしといはんとす故に聖書は此の如き者に向ひ嚴重にこれを懲嚇して禍なるかな神の名は彼等の爲に異邦民に褻瀆さる」といふなり。

此事が既に我等に明白なる時は我等は反對の側より言ふ所のものも適時に注意せんけだし我れ思ふに第一に我等は己の生活より神の名の褻瀆されずして讃揚せらるゝとと與義(福音)に於る信仰の聖とせらるゝとを祈禱しこれを立てし祈禱の主要なる目的となさん要するなり故に祈禱する者はいはんとす願くは我が呼ぶ所の汝主宰の名は我れに於て聖とせられんを人々汝の善行を見て天より

まず父を榮せんが爲なりと(マコ福音書)五の十六)さて神を信する者も於て徳行に上進し罪の悉くの汚穢を免れすべて惡事よ於るの嫌を絶ち貞潔よて光り輝き賢明の爲に尊敬をうけ欲の附着は勇氣よして反拒ぎ肉慾の爲に少しくも弱るとなく嬉戯安樂浮誇無益の事より大に遠ざかり此世の物は必要なるだけ利用し地上に居る時はたい足の爪先よて地に觸るゝのみよて此世の生活に満足する樂みも濁るゝとなくもろく物慾の引誘の上より超然として立ち形体より生活して無形体なる者の生活と競争し徳行を得るをもて唯一の富と認め神に親屬たるを得るをもて唯一の貴きとなし自ら己を統治ひると人欲に屈従はざるとをもて唯一の功勞唯一の主權となし物質の世に生存へる

の長さよ苦むを恰も海上に遁るゝ者の如く港灣に着て彼處に安息を
 迎ふるよ急ぐか如きすべて此の如きの潔き生活を見此のすべてと又
 此れは類するものを見れば誰かかくの如き生活をもて呼ばるゝ所の
 名は讚榮を歸せざる程無智にして禽獸に近きあらんや。
 故に祈禱は於て願ぐは汝の名は我に於て聖とせられんといふ者は爾
 る所の言の旨趣より左の事を祈るなり、即ち願ぐは余は汝の助より
 り間然らるべからざる者となり、公正なる者となり、敬虔なる者となら
 ん、もろくの悪行を制し眞をいひ義を行はん正きよりて行き貞潔
 によて秀で敗壞らざると聰慧と賢明をもて飾られん、天の事を思ひ
 地の事を輕んじ天使の生活をもて讃揚せん」と此等の事及びこれと相

類するの事は此祈禱に於て呼ぶ所の願ぐは汝の名は聖とせられとい
 へる簡短なる願の中は籠るなりけだし人よ於て神を讃揚するを得る
 はた其幸福の原因が神の權威あるを己の徳行よて證するの時よ
 ならずして何ぞや。

イェルサリムの聖キリル曰く「願ぐは汝の名は聖とせられ」として神の名
 は我等のこれをいひ又はいはざるよ拘はらず固より自ら聖なり、さり
 ながら彼は時として罪を犯す者等よ於て侮辱せらるゝとあり、例へば
 「我が名は常に汝等の爲に異邦民に褻瀆さる」といふが如くなる、ある
 よより我等は神の名の我等に於て聖とせられんを祈禱するなり、こ
 れ神の聖ならざるよりして聖なるものならんが爲にならず我等成

聖とせられて聖徳に應ずるの行を爲すや神の名の我等に於て聖とせられんが爲なり。
 聖金口曰く願くは聖とせられんとは願くは讃揚せられんといふ義なり。言意は我等によりて人みな汝を讃揚せらるゝに至らんやうに我等深く生活し人々の前は間然らるべからざる生活をあらはして此を見る所の各人をして主宰に讃榮をさしぐるゝに至らしめんを我等に賜へとなり。これぞ全く賢なるの徴候なる。
 表信者聖マクシム曰く我等物体は属するもろくの望みを殺して己を有害なる欲より潔むる時は恩寵によりて天の父の名を聖とするなり。けだし聖潔とはこれ即完全なる不變不動にして心は於て慾望を殺すの謂なり。此れは達して我等は怒の不當な發作をも鎮めん。何となれば怒をして我が嗜好める物の爲に戦はしむる肉慾の最早あらざらん時は怒の由りて燃起べきなればなり。けだし慾は成聖の力にて既に殺されたるよよる怒は天然に肉慾の保護者なれば肉慾の殺されたるを見るや常に暴怒するをやめん。
 福フエオフラクト曰く願くは汝の名は聖とせられ。言意は汝の名は我等によりて讃揚せられんが爲に我等を聖なるものとなし給へとなり。けだし神は吾人の悪行によりて褻瀆さるゝ如く亦吾人の善行によりて聖とせらる。即聖なるものとして讃揚せらるればなり。
 又曰く願くは聖とせられんとは願くは讃揚せられんといふに代用す

るなり、これ言意は我等の生活を立て汝を榮するよ至らしめ給へどな
りけだし神の名は悪者よよりて褻瀆さるゝ如く善なる生活を爲す者
よよりて讃揚げらるればなり。

ソルンの大主教シメオン曰く「願くは汝の名は聖とせられ」けだし汝は
聖なるよより我等よ於ても汝の名を聖となさしめ給へ我等汝よ應ず
るものとなりて汝の名を聖よせんが爲なり、又汝の名の我等をもて聖
なるものとして傳宣せられ我等よ由り讃揚げられて我等の爲よ褻瀆
されざらんが爲なり。

主教ティホン曰く神の名の讃揚げらるゝは神の言の純ら傳宣せられて
我等も其言よ循ひて己の生活を修むることハリストスの言ふ如くす

るの時よあり、ハリストスいへらく「かくの如く汝等の光を人々の前よ
輝がすべし汝の善行を見て天よいます汝等の父を讃揚げんが爲なり」
神の恩寵なくしては我等自ら此を致すと能はざるなり、故よ我等は天
の父よ其憐みをもてこれを我等よ授け賜ふを願はん、ハリストスの言
ふ如く神なくしては何の善をも行ふわたはざる程我等の荏弱なると
は此よよりて窺ひ知らるゝなり、曰く我なくんば何も行ふをわたはず
どもし我等は神の名の聖とせられ讃揚げられんを願は、善行の爲
よ己が名譽を求むべからず神の言の教ふる所とは別よ教へ或は別よ
生活する者は神の名を讃揚げざるなり、此れが爲よ神の自ら我等をし
まこよ、よ至らしめざらんやうよ我等は神よ祈りていはん願くは汝の

名は聖とせられ。

第三求望

汝の國は來り

韓釋者曰く此の國はこれ直ち未來の天國を指し世界の終りと神の嚴審判の後よわらばるものなり。さりながら我等此國の來らんとを誠實に希はんとせば夫の「我父に祝せられたる者よ來りて創世より以來汝曹の爲に備へられたる國を嗣ぐべし」(マテ、二十五の三十四)といはる所の者と共これに賜はるを確信すべし。されば此の賜をうくべきものはなほ此の生涯に於ても罪と愆と魔鬼との國を滅したる者なるべし。此國を滅すとは主なる救世者を信するより恩寵の働きを

もて成就せらるるなり。既にこれを確信したるものは自ら聖と且無玷と生活せんを主に約して己を主に托ぬるなり。此れが爲に彼を新なる生命に更生せしむる聖神の恩寵は洗禮の機密に於て彼に與へらるべし。して此時より彼を主治るものは最早罪よはめらば恩寵よじてもる。この善と教へ且これを固めて完全を得せしむるなり。これ即恩寵の國よして主のいはゆる「神の國は汝等の裏にあり」といふもの。是なり。未來の國は光榮の國よして此國即神に屬するもの。めは恩寵の國なり。新藤は彼と此との國を共に含むなり。然らずんば恩寵の國の子とならずし。未來の國の速に來らんとを願ふはこれ世界の終りの直ちに來らんとを願ふもの。よし。彼は嚴審判に於て夫の「我を離れよ。永火に入れ

魔鬼及び其使の爲に備ふる所のもの」といへる聲をきく者の例もあらはれ、本をば必ず免れざるべし。聖なる父師等も二つの國に共に同く注瀦をなせりといふ時もして、甲よりは乙より尙よく注意したりき。

未だトリアン曰く我等が天父に願出づる國は世界終まで後格るべき未來の國なり。我等は此國の速に來らんを神に祈願す。これ我等の彼の安息に入らん。エタシホ四の十二を渴望し速に彼れに入ると得て奴隷の位置に入らんとめりられざらんが爲なり。默示録に諸の靈は衆命の下に於て高く主を呼んでいへり。曰く「曠野の主よ何時まで地に住む者を審判せずして我等の血の爲に報らざるや」と。六の十に曰く我等は祈りて主よ速に汝の國を來らせ給へといふなり。これをハリスアニアンの

希望異教人の驚擾、諸神使の凱旋として我等はこれが爲に苦をうけ、自ら我を獲て得ずしてこれを望まんとす。此の十二の

聖キリストアソ曰く我等が神の國の我等に來らんとを願ふは神の名の我等に於て聖とせられんとを神に祈る。同旨趣なす。けだ此彼の國は常に神と共にあり且あるをやめずんば何れの時か神は王たらざる。否其の國よいかなる始を置くべきか我等は神の我等に約されたる。バ

ガオの血と苦みとを得られたる我等の國の來らんとを願ふなり。

又我等は此世に於てハリストス主よつとめたる后主宰ハリストスと共に之を王たるをハリストスの自ら約し給ふ如くならんことを願ふなり。いへらく「我父よ祝せられたる者よ來りて創世より汝等の爲に

王たるも何等の壓制も用ひず自理專制を以てせず畏れを以てせず強
 ゆるを以てせずしてたゞ其順服するものを従はしむる一の眞實なる
 権力とは全く高上なり何となれば德行は何等の畏れをも免れたる
 自由なるものなるべく其の己れを對して苛虐ぐる主權に従ふはあ
 らず甘心なる断定より善を擇ばんを要するものにして其のもろよ
 りの善は於て首要第一なるものは生活を施す權の下に立つに在れば
 なりそれ人間の性は誑惑者をもて迷ひ引入られたるより反響な
 るものより向ふの傾きは我等の同意より生じて人間の生活は悉くの
 悪を占領せらるるなり何となれば死は千々の途より性中へ偶入し
 て罪の諸の種類は恰も死の我等より入り來れる路に似たるあればなま

故に我等は此の如くなる自理專制の下にありと恰も刑の成る執行者
 又は敵の權下にあるが如くよして欲の打撃をもて死の奴隸とせらる
 るより我等はよろしく神の國の我等より來るとを祈らんけだし生活
 を施す力の管轄を新し受けざらん間は我等敗壞の惡なる管轄を己れ
 より脱するあたはざればなり
 故に我等神の國の我等より來らんとを願ふ時はこれ實に左の事を神より
 懇願するなり即願くは我等は敗壞より救はれん願くは死より免るゝ
 を得ん願くは罪の束縛を脱れん願くは死は復た我れより王とならざらん
 願くは惡習の專制は復た我等より勢力あるものとならざらん願くは
 敵は我を主轄せざらん願くは罪より脱して我を伴ふし鬼去らざらん

願くは今日我を主轄して王たる諸欲の我より離れんが爲否無き歸せんが爲よ汝の國の我れよ來らんことを烟の散るがごとく散らし給へ燄の火は融くるが如く口びん聖詠六十七の云をれ烟は太氣は汎濫て如何なる跡をも残さざるべく火中へ投られたる蠟は最早存せざるべしさりながら蠟も自ら火焰に飽て蒸氣又は空氣に變じ烟も全然無き歸しぬがくの如く神の國の我等よ來る時はすべて今日我等を主轄する所のものは無き歸せん何となれば暗は光の臨むに堪へざればなり健康の復したる后病は残らざるべく無欲のあらはれしや欲は働かざるなり生が我等よ王となりて不朽が我等を主轄し始まる時は死は勢力を失ひて敗壞は消えんる自取專神の國の我等よ來る時は死は勢力

「願くは汝の國は来り」ア、これ何等の愉快なる言ぞこれ明し我等は左の祈禱を神に献ぐるなり曰く願くは逆敵の力は散らされん願くは異種族の軍隊は滅されん願くは肉と神との戦は止まん願くは身体は靈魂の敵の爲に逃避所とならざらん願くは手や回復し萬々輔翼する王たる統治と天使の手とは右方より我れよあらはれて萬々抵抗する者は倒まよ仆れん敵は強しさりながら死の怖るべくして勝算はたや汝の助けを奪はれたる者の爲に獨力をもて彼に抗するの間なるのみされども汝の國のあらはるるや哀みと嘆息とは逃去りてはイザイ我三十五の十生命と平安と歡喜と入りてこれに代らんとす、
 「願くは汝の國は来り」と此の如くは

し、いふは清潔なる靈魂に適應すべし、罪を汝等の死すべき身よ王
 とならしむるなかれ、六の十三とひる、パウルの言をきいて行
 る於ても思ふ、於ても言ふ、於ても己を清めたる者は神よついで、願くは
 汝の國は來り、といはんとすればなり、
 聖別をス、曰く清潔の最終に達したる智慧は第二の求望をもて其の
 父の國の成る事の速よ來らんとを懇願するなり、知るべし、これ一は、
 汝等の聖者よ於る不斷の王政を指すものにして、この王政は惡臭
 臭ゆる、痲病を我等の心より盡滅したるよ、よ、惡魔の權の廢絶れた
 徳の馨香しき故、神の我等を主轄し始まるの時よ來る、即克服はな
 れたる肉慾の代りて清潔が我等の心よ王となる、制壓せられたる惡

代りて平和が王となり、
 爾の時よ來るなり、又彼れは一はすべて完全に達して神の子となれる
 悉くの大類は預定の時をもて許約されたる國を指すものにして、
 ネトオが彼等よついで、我が父よ祝せられたる者よ來りて創世よ、以
 來汝等の爲に備へられたる國を開け、といへるもの是なり、
 五の三十七、清き靈魂が神よ呼んで、願くは汝の國は來り、といふ時は其
 の靈の目と願望と期待とを此國に向はしむると恰も釘着されたるも
 の、如くして離れざるべし、けだし靈魂は此國のあらはるゝや直ちよ
 これを圖ぐべきとを良心の證詰よより固く保信へばなり、これよ反し
 て不法なる者は決してこれを希ふとを致てせざらん、けだし此國の來

らん日よ於て己が行の爲よ受くべきものは榮冠と賞とよも與しを
 聞なるを知る所の者は審判者の實坐を見るだも必ず望まざるべけれ
 ばなり
 聖金口曰く願くは汝の國は來り』さて此言は良善の子は適當するなり
 けだし彼は見ゆる所のものは束縛られず現在の幸福を大なるもの
 は思ひ爲さず父よ進向して未來の幸福を希へばなりこれ凡て地よ屬
 するものよ脱れたる善なる良心を靈魂とよも生來るな^ル故^ニ又^モ
 日々此を希ひなき故にいかり曰く自ら聖神の初で實る果を有らば嘆
 て子とならん』即我等の身の救はれんとを俟つ』ローマ八の廿三此の
 如きの愛を有つ者は此生涯の幸福の中よありて高慢するとも憂者の

中よありて失望するとも必ずあるあたはず乃ち天上よ生活する者の
 如く彼此の窮乏を免れて自由を得るなり
 又曰く我等は祈禱は於て願くは汝の國は來り』といふべきを教へらる
 けだし我等は愁の凌虐をうけ無數の誘惑よかばりて神の國は必要有
 ればなり』罪を我等が死すべき身よ王とらしめて其欲よ御ふなけれ
 又我等の肢体を不義の器となして罪よ委ぬるなかれ死より甦りし者
 の如く己を神よ委ね肢体を義の器となして神よ献ぐべし』ローマ六の
 十二十三且や我等は現在の生活よ餘り執着するをなさず現在を輕ん
 じて易らざる來生を希ひ在天永遠の國を求むべきして此世の快樂の
 爲よはたどへ身体の裝飾を以ても富の夥しきを以ても所得の大なる

を以ても寶石の貴きを以ても家屋の壯麗なるを以ても市尹又は軍將の爵位を以ても紫衣と冕冠とを以ても種々の食物と滋味と奢侈とを以ても其他我等の五官を慰ましむべき如何なるものを以ても誘はれず凡て此等を辞して不斷に神の國を求むべきを教へらるゝなり。

福アウグスティン曰く願くは汝の國は來り我等は誰に此を告るかけだも神は常に王たればなり。もろくの造物は何れの時彼に事ふるも彼は常に王權を被むるなり。されば我等が祈るは如何なる國の爲か。世界の終りよわらはれ福音經よしるさるゝ所のものゝ爲なり。曰く我父よ祝せられたる者よ來りて創世より以來汝曹の爲に備へられたる國を願くは是れぞ願くは汝の國は來りと言ふ時は我等が念ずる所の國な

る。さりながら願はずんば此國は來らざるか。無論來らん。さりながら我等其時よ左方よ立つ者とならば何の益あらん。故よかくの如く祈禱をなしてその國が我等の爲に來らんやうよ又我等も其國よわらはれて其外よ棄てられざらんやうよとの望を言わらはすなり。汝のこれを希望し祈禱してこれを求むるは諸聖人よ興へらるゝ國よ汝も同く屬することを得るやうよ生活せんが爲なり。故よ願くは汝の國は來りといふはこれ汝のよろしく生活せん事を祈るなり。願くは主よ汝の國に屬せんことを願くは彼は汝の諸聖人と義人との爲に來ると共に我等の爲にも來らんを。

又曰く我等は神の國の來らんを願ふ。たとへ我等は願はずとも彼は

來らん。さりながら其の來らんとを願ひ且祈るはこれ天よまします我等の父が我等をして其國よ堪ふるものとならしめんとを願ふ。非ずして何ぞや。而して其の來るも我等の爲よ來らざるものあるなからんが爲なり。けだし此の來らんとする所の國は多くの人の爲よ來るよはあらざればなり。彼は「我が父よ祝せられたる者よ來りて創世より汝等の爲よ備へられたる國を嗣げ」といはる。所の者の爲よ來らんとされども「詛はれし者よ我を離れて永火よ往け」との聲を聴く者等の爲よ來らざるなり。マトフニ廿五の三十四四十一。ゆゑ願くは汝の國は來りと言ふは其國の我等が爲よ來らんやうよと祈るなり。我等が爲よ來らんやうよとは如何なる義か。我等を見て善なる者となさんやうよとの善

なり。故まては主が我等をして善なる者とならしむるやうよと其事を祈るなり。けだし彼の國は其時最早。我等の爲よ來るべければなり。又曰く我等の願ふと願はざるとよか。は疑なく來るべきを汝の國は來れと言ふはこれ其國が我等の爲よ來り我等も共よこれよ與るよ堪ふる者とならんやうよとの希望を己れは獎勵するなり。福又エホファイラクト曰く願くは汝の國は來りとはこれ即第二の來臨なり。けだし人は安靜なる良心をもて復活と審判との來らんとを敢て祈願すべければなり。罪人は神の國の爲よ祈禱せざらん。けだし彼處は罪人を待つ所の罰の故は其國の來らんとを希はざればなり。これは反して義人は現世の誘惑より免れて安息せんが爲よ其國の更よ速よ來らん

とを祈禱す。

ソルンのシメオン曰く「願くは汝の國は來り」汝は善行の爲に我等より王となれ我等は悪行よりて汝の敵とならざらん。さて願くは汝の國は來りとはこれ即末日を指す。言意は汝は衆人の上より王となり且其の諸敵の上より王となりて其國は永遠に易らざらんとなり。さりながらこれを祈禱す於ていふは堪能にして其時の爲に最早準備したる者は適當するなり。

主教テ・ホン曰く聖金口の教よりいふ「國とは此處にては天國を指す。これ即眞實の「ハリステアニン」が待つ所の國にて彼等は祈禱していはんとす。願くは汝の國は來り」と金口いふこれ善智なる子のいふ所の

言ふに彼は有形のものより束縛られず現在のものを大なりと思ふとも決してわらず父より急ぎ未來に向はんとす。天國を希ひてかくの如く願くは汝の國は來りと祈禱する者はまづ第一に地より属するの國名譽、尊敬、慰樂及び富を輕んずべし。然らずんば祈禱して汝の國は來りといふは無益なり。けだし先づ地より属するものを輕んせよ。さらば其時より天に属するものを願ふべし。又彼は第二に清き良心を有つべし。否悔改をもて良心を潔うすべし。さらば其時より祈禱して汝の國は來りといふべし。もし然らずして罪より汚されたる良心を神の審判と永遠の苦とよて畏嚇する時はこれを望み且願ふことあたはざるなり。けだし其良心よ於て永遠の苦を待つよりて擾さるゝあらば如何ぞ祈禱して汝の國

願くは汝の旨は天に行はるゝが如く地も行はれん

は来りといふを得んや故に神の國の来らんことを欲し且願ふ者は罪
を棄て悔改と悲嘆と信仰とをもて己を清めんとを必ず要するなりけ
だし神の國は義人と聖人と備へられてかならず来らん然れども罪
よ汚されたる者よしてこれを待つは徒然なり聖金口いふ此の希望は
清き良心と地も属する者より離れたる靈とより生ず

第三求望

願くは汝の旨は天に行はるゝが如く地にも行

はれん

輯釋者曰く神の旨は我等の聖潔なるとなりソルン前書四の三主の誠
命よ於てあらはされたる聖なる旨を行ひて我等みな聖なるものとな

り此の如くして救はれんとは一モフイ前二の四神の欲する所なり我
等は汝の旨は行はれんと祈禱して天よいます我等の父が我等をして
其の聖なる旨即善よして悦ぶべく且完全なる旨を瞭解せしめ給はん
とを願ふローマ十二の二即凡て眞實なると凡て傳ふべきと凡て公義
しきと凡て清潔さと凡て愛すべきと凡て稱すべきとすべていかなる
徳いかなる譽よても一フリフ四の入聖力を盡してこれを行ふも備辨せ
んを願ふなりこれ能力を具へて常に神の旨を行ふ聖詠百二の二十
神の使等の天よ於て完全なるごとく我等も完全なるものとならんが
爲なり前述二つの求望の中第一は神を畏るゝの畏れよて睡眠を覺醒
し第二は天國を望むの望みよて元氣を勵まし而して此の第三の求望

願くは汝の旨は天に行はるゝが如く地も行はれん

は既に醒覺て伸張したる力を注ぐべき所の實事を示すなりけだし此のすべては主より出づるものなるより主の善意に従ひて主のすべての働きを統治せよ己を全く委かせつゝ主が我等に於てこれを成さしめ給はんことを祈るなり

ヨハネ三章一節曰く汝の旨は行はれんと呼ぶは神の旨の成るゝ妨ぐるものゝあり得べからんが爲にわらず其旨の我等衆人に於て實行せられんが爲なりさりながら神は我等が主の誠命に従ひて進行するを欲するの外他に何の欲する所あらんや故に我等は主より祈りて其聖なる旨を指示して我等に此を行ふの力を與へ給はんことを願ひ天も地も救はるゝものとなりんとを願ふなりけだし神の旨の心髓は既に

子となしたる所の者を救ふよわればなりさて主の傳道と行爲と苦難とをもて成就し給ひしものはこれ神の旨なりされば彼は自らさへり己の旨を行ふよわらず父の旨を行ふなりとイオハネ六の三十九節あるに凡て彼が爲しゝ所のものは父の旨に従ひてなしゝものなること疑なし且や彼は今日も我等を招きて其模範に従はしめ死に至るまで神の旨に止まらしむるなりさりながら我等は此を實行せんが爲に神の旨に須つ有り神の恩恵と其の助けとを須つあり故に汝の旨は行はれんといふはこれ我等神の旨に従ふよよりたどへその爲に苦をうくることも出來するあるべしといへども我等の爲に何等のあしきともあらざり確信して其旨の我等に成らんと希望をいひ表はすなりそれ主

は苦難の來らんとする前より於て人間の肉體の弱きを己の肉體に於て示さんと欲して「父よ此書を我より過ぎ去らしめ給へ」ルカ廿二の四十三」といへりさりながら直ちこれに加へて「我の旨成らずして爾の旨成るべし」との給へり彼は自ら父の旨と其力となりさりながら彼は目前より臨み來れる苦難の必免るべからざるを示して己を父の旨にまかせ給ひき。

聖キプリアン曰く汝の旨は行はれんといふは神が欲する所を爲し給はんを祈るゝあらず神の欲する所を我等が爲し得るを祈るなり。けだし神が欲する所を爲すは誰かこれを妨ぐるを得んさりながら我等の精神と我等の行爲とはすべて神に従はんを欲するも魔鬼はこれ

を我等より妨ぐるゝより我等は神の旨の我等より於て成らんとを願ひ且祈るなり何となれば其旨の我等より成らんが爲し我等はこれに對する神の旨に須つあり即其助けと保護とに須つあればなりけだし「己の力にて捍衛らるゝとあたはずたゞ神の寵佑と憐憫とによりすべての人は安全を得ればなりさて主は自ら己れに負ふ所の人性の弱きをあらはして「我が父よもし能ふべくんば願くは此書を我を過ぎん」といへりされども其後門徒をして自己の旨を行はず神の旨を行はしめんが爲これに模範を與へて「我が欲する如くならずして汝の欲する如くなるべし」マテイ廿六の三十九」といふをこれに附言し給へり主は又他の處に於てもいへり曰く「天より降りしは己の旨を行ふが爲しわれら

我を遣はし、父の旨を行はんが爲なり。イオアン六の三十八。それ子
 まして斯の如く従順は父の旨を行ふならばまして僕たる者は従順
 して其主の旨を行ふとイオアンが其書に於て神の旨を行ふを勸説す
 る如くすべし。まゝおらさずやいへり。世或は世あるものを愛するなか
 れも、誰か世を愛すれば父を愛するの愛其衷ある無し。凡そ世ある
 者即肉體の慾、眼目の慾、世業の誇は父よりするまゝおらず。世よりする
 なり。世もその慾も過ぐた。神の旨を行ふものは永遠に存す。イオアン
 福音書の五十七。猶これ神の永遠に存するがどときなり。我等は永
 遠に存せんとを願はば永遠なる神の旨を行ふべし。さて神の旨とは即
 ち天より行はるゝの行ひしもの及び救へしもの是なり。たとへば互の交際

於て謙遜なると信仰は恒なると、言語は温順なると行は義にして事
 憐憫なると行儀は於て齊整なると是なり。即侮を人に被ひらしむるを
 爲さずして自ら被ひる所の侮は能くこれを忍耐し兄弟と和平を保つ
 が如き。又全心をもて神を愛してこれを愛すると父の如くしこれを畏
 るゝと神の如くし何物をもハリストスより尙ばざるとはハリストス
 の何物をも我等より尙ばざるが如くし愛をもて彼れと全く配合して
 勇氣と信仰とをもて彼れの十字架の下に立ち彼れの名と榮との爲に
 功勞をあらはすべきに際しては彼を信認するの堅きを言ふ。あらはし
 詰問に際しては彼に從ふの確信をあらはし死をもて忍耐するが如き
 是なり。けだしこれよりて榮冠を蒙ればなり。是れぞハリストスと

願くは汝の旨は天より行はるゝが如く地より行はれん

百二十六

同調者たらんを希ふなる是れを神の誠命を行ふなる是れを父の旨を成すなる。

ニメサの聖グリゴリイ曰く神の旨を行ふは靈魂の爲に健康を助くる如くこれと相反して神の善なる旨より離るゝは靈魂の病にして死をもて終らんとす故に地堂は於て生活の良法を去て、叛逆の毒を大に嘗めしや我等は病者となりたるより眞實の醫の來りて神の旨より離れたるが爲め病は負かされたる者を醫術の法により反對のものにてその惡を愈しつゝ祈禱は於て天の父に向ひ汝の旨は行はれんといふべきを教へこれを神の旨の範下に従はしめて此病より救ふなり此の祈禱の言は靈魂に及びたる病の爲に療方とならんとす。

「故に神は告げて汝の旨は我れもも行はれんといふべきまで達する時はまづ其の神の旨と合はざる所の生活を非責め痛悔をもて此をいひあらはさんと全く緊要なりけだし我が惡は生活したりし時、當り我れは働かしは汝の旨と反對なるものなりしよぞ我は惡慮者の役となす者となれると恰も敵の判決を己が身に施行する罰の執行者の如くなりしよより我が亡びを哀憐むの心を起して汝の旨は漸次我れも成るを賜へといふべしけだし暗黒なる洞穴に光の入る時は彼處の暗は消散する如く汝の旨の我れも行はるゝ時も凡て惡として逆なる任意の運動は無し歸せんとすればなり眞潔は肉慾の制む可らざる進行を消し謙遜は心の高慢を滅し溫柔は驕傲の病を療して善愛はそれ

願くは汝の旨は天より行はるゝが如く地より行はれん

百二十七

と反對なる惡の無數の群を心より逐ひ嫉妬猜忌不平憤懣怒りあふ心地惡意偽善凌辱を忘れず復讐も渴き心臓も血の沸騰ると思しら目とは心より逃走らん即すべてかくの如き惡の群は愛する所の心情より滅されんとす故に願くは汝の旨は我れも成りて惡魔の旨は働かざるものとならんことを。

さりながら我等の旨の善ならんとを神も願ふは何故なるか惡より一たび弱れる人性が善の爲も薄弱になりしよよるけだし人の惡より善も復るは惡も趣く程易きよあらざればなりこれ尙ほ身軀も於ても此れと同様の法を認め得るがごとしけだし健康なる軀の病軀もなると病軀の健康も復るとは同じからずしてひとしく易きよはあらざ

ればなり故に惡も向ふ志望の我等も働く時はこれを助くるものよ要あらじ何となれば惡弊は我等の意旨も於て自ら己を成就すればなり。

さりながら良善なるものを願ふ望みの生ずる時は神のこれを成すも助けんとを要す故に我等は言はん清潔は汝の旨なれども我は肉も屬して罪の下も賣られたるローマ七の十四もより汝の力をもて此の善なる旨を我れも發達せしめ給へど我等欲より離れて正義と敬虔とよ従ふの事も就ても我等亦同じく言はんとす。

然れどもこれ天も行はるゝが如く地も行はれんといふを加ふるは如何なる義か此言は我れ意ふも大も深き定理の一を示すなりすべて智慧ある造物は其性の無形なるものと肉を被ひるものと二分たる

となり無形なるは天使の性よして他は即我等人類なり甲は重さを負ふの肉躰より脱れたる靈物なるより其性の軽さと動く便なるよりより軽く且精なる空中より居りて上天の使命を奉行ふされども乙は我等の躰の地より属するものと親属たるよりかならず地より属するの生活を棄けて己の分とするなり美しして且善なるものを願ふの望は彼と此との天性は同様は存して全世界の統治者は凡て言語と智識とを賦與へたるものをして或る自法的任意より自ら己を支配せしめんが爲り兩者より自治と専制ともろく免れ得ざる事より免るゝの自由とを一樣平均に遂げしむるといへども上天の生活はすべてに於て己を惡弊より深く守るより善と反對なる所のものは一も彼れと相容れ

ずこれと相反して下地の生活はもろくの欲に従ふ感動と傾きとを轉々旋回して人間はこれに陥りぬ故に神より默示されたる言は聖なる能力の上天の生活を認めて惡の有らざるものと爲しもろく罪の汚れより清められたるものと爲すされども人間をば惡に陥りしと善なり難きとの故よりもろくの惡は汚されたるものとしてわらばすもしかくの如く高上なる生活は無欲清潔にして此處の不幸なる生活は諸欲に沈溺するならば上天の生活は諸の惡より清められたるものとして神の善なる旨より大に發達するを疑なしけだし惡のなき處はかならず善あればなりされども我等の生活は善と交通を失ひて供て神の旨より落ちたり故に天の住所へ行はるゝ如く我等も神の旨

の妨げなく統治するを得るやうに我等の生活を悪より潔むるを祈
はるゝが如く我等も善の行はれて我等の心量も
もろくの悪弊の亡びし後汝の旨の好く進歩して一切に満つるを得
るを致さん。

イエルサリムの聖キリール曰く神は属して有福なる神の諸使の神の旨
を奉行ふは唱詩者太闢の言ひし如し曰く其の諸の使能力を具へて其
旨を行ふ者や主を讃揚し聖詠百二の廿故に汝の旨は天へ行はるゝが
如く地も行はれん」と祈禱し心中にて左の如くいふべし曰く主宰や

願くは汝の旨は諸の天使へ行はるゝが如く我れも地上に於て行はれ
ん。

聖金口曰く願くは汝の旨は天へ行はるゝが如く地も行はれん汝は
絶好き聯絡を見るか主は先きよ未來を希ひ己が本國に向ふべきを命
じたりきさりながら此事の未だ成らざる迄の間此處に生存する所の
者は天の住者に應ずるの生活を爲すを力めざるべからずけだし主は
いへらく天と天に属するものを願ふべしさりながら天に達する先
きよ地を天とならしむべしこれ地は居りつゝも天上に在るが如く行
ひ且言ひて此事を主に祈らんが爲なりけだし我等の地は生活するは
上天の能力の完全に達するよ少しの妨げもあらざればなりかへりて

此處より居るも我等は天上より居るが如くすべてを爲すことを得ん故に
 救世主の言の旨趣は左の如し即ち天上より於てはすべて妨げなく行はれ
 て神使等は或事より於ては服従すれども他の或事より於ては服従せずと
 いふやうなることなくすべてに於て遵守服従する如く(けだし言ふあり
 「能力を具へて主の言を行ふ者」と聖詠百二の廿)我等人類も汝の旨を
 半ば行ふよめらすしてすべて汝の悦ぶ如く行はしめ給へ」となり且や
 汝はハリストスのこれと共に謙遜すべきをも教ふるを見るか、けだ
 し德行はたゞは我等の熱心ばかりのみよめらすして天の恩寵よか
 るをわらはしたればなり且これと共に我等各人より祈禱の時より於て
 全世界の爲にも慮ることを己れに擔任ふべきを命せしけだし汝の旨は

我れよ或は我等より行はれんといはずしてすべて地より行はれんといへ
 ばなり、これ即ちもろくの迷を滅絶して眞實を扶植んが爲なり、もろく
 の悪害を驅逐ふて德行を恢復さんが爲なり且かくの如くして何よ
 うに於ても天を地より異なる無らしめんが爲なり實もしすべてかくの
 如くならば地下よりあるものと天上よりあるものとは性質より於て同じか
 らざるありといへども異なる所なからんとす其時は地は我等より他の
 諸天使を顯出せりとやいはん。
 又曰く是より先き主は未來より對する愛と天國の望みとを我等より起し
 且我等を此望の徹底する所とならしめて今は我等より汝の旨は天より行
 はるゝが如く地より行はれん」といふべきを誠命す其意いへらく主よ

我等をして天上の生活よ倣はしめよ、汝の自ら欲する所のものを我等も亦同くこれを願はんが爲なり、我等の旨の弱わりて汝の旨を行はんと願ふといへども肉體の弱きよ遮らるゝ、助け給へ進まんと欲するも跛行かざるを得ざる者よ手を伸ばし給へ、靈魂は輕し、心神は勇ましされども肉體はこれを煩はす、彼は速よ天上よ向ふて進めども此は彼を地下よ引くなり、然れども汝の助けよ由りて能はざるものは能ふべきものとなり、願くは汝の旨は天よ行はるゝが如く地よも行はれん、聖カシアン曰く祈禱は地よ屬する所の我等よ天よ屬する者と均くなるを賜はらんを希ふより上よ出づるとは能はざるなり、けだし「汝の旨は天よ行はるゝが如く地よも行はれん」と言はいかなる義を示す

か、これ人類が天使よ似同からんとを願ひ、此天使の天よ於て神の旨を行ふ如く、凡て地よ在る所の者も己の旨を行ふよはあらで神の旨を行はんとを願ふよあらすして何ぞや、これ又一義なり、されば此の願を充分の感情をもて陳るを得るものは他よある能はず、其の凡て我等よ不幸と意はるゝ所のものを我等の益とならしむるは神のみなるを信じ、神が我等の救と善とを思ひ、且慮るは我等自ら己の爲よ思ひ、且慮るよりも更よ勝されりと信する者のみなり。

福アウグスティン曰く「願くは汝の旨は天よ行はるゝが如く地よも行はれん」諸の使は天よ於て汝よ奉事する願くは我等も地よ於て汝よ奉事らん、諸の使は天よ於て汝を辱しめず、願くは我等も地よ於て汝を辱しめ

さらん彼等が汝の旨を行ふごとく我等も行はんされば我等が此處に
 於て祈る所のものは我等の善者とならんとを祈るゝあらずして何ぞ
 やけだし神の旨は我等のこれを行ふ時より我等も成るべくしてこは即
 善者となるの謂なればなり
 又曰く願くは汝の旨は天より行はるゝが如く地より行はれん言意は天
 より在る所の神の使よつきていはん彼等は百方克く汝も配し汝をも
 て樂みていかなる迷の雲も其聰明を蔽ふとなくいかなる哀みも其願
 樂を擾さざるは是ぞ汝の旨なるが如く地より在る所の汝の諸聖人即其
 體は地より造られてたゞ天の住居も定められたりといへども地よ
 り取られたる者も於ても亦其の如くならんを願ふとなり願くは汝の

旨は行はれんとは知るべし是れ即汝の命令も遵ふをあらはさんとの
 義にして天より行はるゝが如く地より行はれんとは諸神使も行はるゝ
 が如く人々も行はれんといふ義なりけだし神の旨は其命令の行は
 る時より成るなり此事を主は自ら指示して曰く我糧は我をつかはし
 ゝ者の旨を行ふよりイオアン四の三十四又曰く天より降りしは我
 の旨を行ふが爲まわらず我をつかはしゝ者の旨を行はんが爲なりイ
 オアン六の三十八故に誰か神の旨を行ふあれば其者も於て此の旨は
 成るなり何となれば神の欲する所を爲せばなり即神の旨よしたかひ
 て行へばなり
 表信者聖マクシム曰く肉慾と忿怒とより離れたる一の思想の力よ

り奥密に奉事を神よさしぐる所の者は地もわれども天もある神使の品位の如く神の旨を行ひて神使と同役者となり又其の同居者となるとは大なる使徒の言ふが如くなるべし、曰く「我等の居處は天もあり」
「フィリプ三の廿」かくの如き者は罪の甘さをもて思想の力を敗壞らす慾情もあるなく又其同胞に對して狂暴に怒り罵るともあるなくたゞ才智ある者をして第一の智慧に天然に導き至らしむる最單純なる最清潔なる智慧あるのみなり是れ即獨り神の喜ぶ所にして神は獨り其僕たる我等よりこれを促すなり天は聖なる使者の神よさしぐる聰明なる奉事の外は何もあるなしされば神は我等よりもそれと同様な奉事を求めて祈禱する時左の如く言ふべきを我等に教へ給へり、

曰く「汝の旨は天は行はるゝが如く地も行はれん」されば願くは我等の智慧は神を求むるに進められ我等の願望の力は神を望むに進められて我等の憤激する力は此を保護するが爲に剛はん、一步を進めていへば否眞實にいへば願くは我等の智慧は憤激の力より火の如くなる熱心よて堅められ願望の力より非常なる望を燃起して神の前よ整然として立てられんとをけだしかくの如く我等は天使に倣ひ地も在りても天使と同様な生活を送りて己の智慧は神よすゝひの後何物も進むを断じて許さゝると恰も天使の如くして間斷なき奉事を神よさしぐるものとならん、

福フェオフィラクト曰く「願くは汝の旨は天は行はるゝが如く地も行はれん」

く地も在りて我等人類も行はれん諸神使の汝の旨を行ふ如く我等ももこれを行ふを賜へけだし諸神使は常よすべてを神の旨よしたがひて行へばなり。

ソルンのシメオン曰く汝の旨は神使等も行はるゝが如く我等も行はれ我等よて成就せられんが爲よ我等を神使の如くならしめ給へ願くは我等が欲よ従ふ人間の旨は行はれずして汝の無欲よして聖なる旨の行はれんとを汝は地も属するものを天も属するものと合せ給ひし如く願くは地も在る所の我等も天も属する生活奉事行爲の成らんを賜へ。

主教ティホン曰く神の旨は我等の願なくしても成らんそれが爲め我等

は神が欲する所を爲し給はんとを願はずしてたゞ神の旨の欲する所を我等爲し得んとを願ふなり此よよりて見れば神なくして神の旨を行ふは我等よあたはざるを明かなり神の旨は我等敬虔を全く守り終りよ至る迄これよ止まると死よ至るまで忠信なれ「黙示録二の十」といふが如くなる時よ成るべく罪人等罪より離れて悔改むるの時よ成らん曰く神は人々の救を得て真理を知るよ入らんを欲すそれが爲め我等は此事の成らんとを神も願ふていはん曰く汝の旨は成らん」と又いはん「天も行はるゝが如く地も行はれん」とこれ言意は神使等の天もありて神の旨を行ひ互よ愛と和平と一致とをもて生活するが如く我等も地もありて彼等よ倣ひ聖なると清潔なると和平と愛と一致とを

もて神の旨を行ひて生活するを得ん。願くは汝の旨は行はれん」と祈る時は己の旨は絶ちてこれを棄てざるべからざるなり。輯釋者曰く「願くは汝の旨は行はれん」との言は於て神の旨よしたるがふの忠順を表するとも見得べし、聖カシアンと聖キプリアンの言ふ所は暗く此を示す。誠命は於て言わらはされたる神の旨を行ふは此忠順なくして完全はあらはるゝこと能はざるなり、何となれば時として甚だ大なる剝奪と關連り又時としては甚だ堪へがたき苦難と關連るとあればなり、彼れと此れとを耐忍せんとせば必ず自ら己の運命を委することとすべて己れは屬する事を神の旨に任ずることを中間に立てざるべからず、誠命を行ふは神の旨よしたるがふの忠順を中間に立たしむ

べくして忠順は此を堅め且高うするなり、されば全くの忠順は、ハリス・マリア・エレンの道徳完全の最巔と謂つべし。

第四求望

我等が日用の糧を今日我等に與へ給へ

輯釋者曰く祈禱は第四の求望より一轉するなり、第三の求望までは凡て神に屬する生活の内部の建立よかゝる願よして神を畏るゝ畏れの働よよりて起され、天國を希ふの望みは屬せられて神の誠命の途を進行するの事なりしが、今や求望は此の生活と必ず相觸るゝ所の者よ進みなり、それ體の爲に限られたるのみならず靈の爲にも限られたる我等の爲に糧はいかばかり要用なるか、罪の承認と赦免とは弱きより

てしばし、陥る者の爲まいいかよ要用なるか、捍衛と救護とは誘惑と圍まれて常々兇惡なる敵と讒せらるゝ者の爲まいいかよ要用なるか、凡て此等よつきて我等は以下四個の求望よ於て祈禱すべく皆これよ指導るゝなり願くは我等が在天の父はすべて我等が生活の出來事の内部と外部とよ論なく神よ屬する生活の爲よ便利なる進行を建て給はんことを。

第四の求望よ於て祈る所の糧は身體の生活を支ふるが爲よ欠くべからざる物質的の糧をいふと共よなくて生活するわたはざる他の必要物例へば衣服家屋等よ於るの願をも包含すと知るべし。さりながら靈魂も神よ屬する生活を支ふるが爲よ神よ屬するの養よ必要を有する

よより糧とは此處よては靈魂の爲よ必要なる神よ屬する食物をもいふと知るべし。此の食物は一は神の言なり、これ即神より出づるの眞理を認識するをもて靈魂を養ひこれをして見るべからざる神の實を直覺するよ入らしむるものよして獨り智識をもて此實を視覚するは靈魂を養ひ且樂ましむるなり、彼れ又一は神の恩寵なり、即機密よより靈魂よ降りこれを充たし且これよ飽かしむるものなり、我等が生涯の間よ於て此の機密は即痛解の機密是なり、特よハリストスの聖なる奧義を領するの機密是なり、主は自らこれを稱して天より降りて世よ生命を與ふる獨一の養糧といへり、すべて此事の思想を時を得て心中よ善へ祈禱の言を發していはん、曰く「我等が日用の糧を今日我等と與へ給

テルトリアン曰く神の睿智は祈禱の求望よいかも美はしき順序を與へたるか天は屬するもの即神の名と神の國と神の旨とよ次で地は屬するの要用物を願ふ爲よも地位を與へたりたとへ主は「先づ神の國と其義とを求むべし然らばこれ等の者皆汝等と加はらん」マールフェイ六の三十三といはれたりしも然れども我等が日用の糧を今日我等と與へ給へといへる言は物體上よつきていはんよりも靈神上の旨趣と瞭解すべしけだしハリストスは我等の糧なればなり彼は我等の生命よし又生命の糧なるとは彼の自ら言ふ如し曰く「我は生命の糧なり」イオアン六の四十八又曰く「我が父は天より眞實の餅を汝曹と賜ふけだし

神の餅は天より降りて世に生命を賜ふものなり」と其後又曰く「我は天より降りし生ける餅なり我が與へんとする餅は即我が體なり我れ世の生命の爲と與へんとするものなり」イオアン六の三十二、三、五十一故に餅は即彼の體にして我等は餅に於て彼の體を受るを得るなり是れ我が體なり「ルカ廿二の十九」と彼はの給ひきされば彼の體を食ひ彼の血を飲む者の事をも彼等は我れとありといひ給ひきイオアン六の五十六かくの如く我等は日用の糧を願ひ彼の體をうくるよよりて不斷にハリストスと居らんとを祈るなりさりながらたとへ此言を靈神上の旨趣と取らずといへども其時よも此言は靈神上の教訓より離るゝよはあらずけだし信者の爲と獨り緊要と定めらるゝ餅のみを願ふべ

きを命せられて凡て其他の物は「是れ皆異邦人の求むる所」マトフェイ六の三十一といはれたればなり「見曹の餅を取りて狗と投與ふるは宜きとあらず」マトフェイ十五の廿六といふやこれ亦主は同一の事を例よて證し比喩よて教訓するなり且いへらく誰か餅を願ふ所の子よ石を與へんや「マトフェイ七の九」どけだし此處は子の父より受けんとするは何なるを指示すなり然れども夫の夜間よ門を叩きし者もたゞ餅のみを願ひたりきさて主が「今日我等と與へ給へ」と附加したるは極めて審智なりけだし主は是より先き最早教訓して「明日の事を慮るなかれ」といはれたればなり「マトフェイ六の三十四」且主はこれよ譬を適用していふ人あり田産豊盛よ安然充足りて永く存命せんとを謀りけるよ其夜よ

死したりしとぞ「ルカ十二の十六―二十」

聖キプリアン曰く我等は祈禱を續け求望をのべて「我等か日用の糧を今日我等と與へ給へ」といふ此言はこれを靈神的にも又はこれを單純にも解すを得べしけだし何れよ解すとも救の事よ助くるは一なり。けだし生命の糧は「ハリストス」よして此の糧は悉くの人よ屬するよおらずしてたゞ我等よ屬すればなり神は瞭解する「真理を」者と信する者との父なるよより我等は呼んで我等の父よといふ如く「ハリストス」も其體を食ふ者或は彼の體よ入る者即教會よ入る者の糧なるよより我等は彼を名づけて我等の糧といふなりされば聖堂よ任りて「エウハリステヤ」をうけこれをもて救の糧食とする我等が此糧を與へ給はんと

を毎日願ひ求むるは他とあらず或る重き罪を輸入せざらんが爲なり
 又此天上の糧をうくるを我等と禁せられざらんが爲なり主は自ら我
 等と教訓していへらく「我は天より降りし生る餅なり此餅を食ふ者は
 世々よ生さん」イオアン六の五十一のよる主の言ふ如くたゞ彼の餅を
 食ふ者は永く生きただ彼の體を食ひ非難なくして「エウハリストヤ」を
 うくる者は生くるを得るならば誰かハリストスの體を禁せられ且遠
 ざけられて救は遠ざかる者とならざらんが爲は畏れて祈禱せざるべ
 けんやこれ主の自ら威嚇し給ふ如しいへらく「人子の體を食はず其血
 を飲まずんば己れは生命有るなし」イオアン六の五十三故に我等吾が
 餅なるハリストスを日々我等と與へ給はんとを願ふはこれハリスト

スに在りて生活する所の我等彼の體をもて己を聖とするより須臾くも
 離れざらんが爲なり。

又此の言は次の如く解すとも得べし即我等は此世を棄て靈神上の
 恩寵を信するより己の富と譽れとを辞しいはゆる己の所有を悉く
 捨てざる者は我が門徒となる能はず「ルカ十四の三十三」といへる主の
 教訓を憶ひてたゞ一の食物と一の養とを願ふと是なりハリストスの
 門徒となりし者は師の言ふ如く一切を辞してたゞ一日の養を願ふべ
 く祈禱は於ては所謂「明日の事を慮るなかれ蓋明日の事は明日自ら慮
 らん」一日の苦勞は一日の爲に足れり「マテイエ六の三十四」といへる主
 の誠命に注目して其希望を一日の養より遠く伸ばすべからず故に明

日の事と思ひ煩ふを禁せらるゝハリストスの門徒が一日の食を願ふは當然なり然るよし我等は神の國の速に來らんとを願ふも當り此世に於て長時と充つるの衣食を尋ねるならばこれと反對して相容れざらん福なる使徒は我等の望みと信との堅固なるべきを教へ且これを確定して吾人は憶はしむると左の如し曰く「我等は何をも携へて世に來らざりき何をも携へて往く能はざるは明なり食あり衣あらばこれをもて足れりと爲すべし。それ富まんと欲する者は誘と罟と又人を災難と沈淪とに溺らす所の無智として害ある萬殊の怨に陥るなり。並財を慕ふは諸の悪事の根なり。或者はこれに耽りて信を離れ多くの苦をもて自ら己を刺せり」『テモフニ前六の七―十』使徒は此をもて富の輕

んすべきを教ふるのみならず其の危険なるをも教ふけだし富は隠れたる狡獪をもて人智を愚いさなふ姦佞なる惡の根の伏するあればなり故に此世の充足を謀り果實の大なる富をもて自負する愚なる富者を神は證責るなり神は彼にいへり「無智なる者よ此夜汝の魂を爾より索めん然らば爾が備ひし物は誰の有とならんか」ルカ十二の二十。無智なる彼は己が死すべかりける夜に於て利を獲るを喜び餘生の最早幾くもわらざるも果實の富を謀る。噫、主は教へていへらく己の所有を盡く賣り貧者と頼ちて自ら寶を天に備ふる所の者は全く完全なる者なりと又此に己を支度し決心して一家の經營のいかなる罟も繋がるゝとなく其財産を神にさしげ脱然

として自ら彼處へ行く所の者は主の言ふ如く彼れは従ひて其の苦みの榮は傲ふを得んと「マトフェイ十九の二十四」それかくの如くすべての人は己を此事に預備せんが爲に祈禱するとを學ぶべく又すべての人は如何なる者を己れに要するを祈禱の法によりて瞭解すべし義人の爲は日々の食を乏しきと決してある能はず録する所の如し曰く「主は義人の靈魂を餓しめず」箴言十の三又曰く「我れ幼より今老ゆるに至る迄未だ義人の棄てられて其裔の食を乞ふを見ず」聖録三十六の二十五主は又同く約していへらく「何を食ひ何を飲み何を衣んと思ひ煩ふとなかれこれ若異邦人の索むる所なり汝曹の天の父はすべて此等のもの、汝等必要なるを知る汝等まづ神の國と其義とを求めよ然

らば此等のもの皆汝等に加はらん「マトフェイ六の三十一—三十三」それ主は神の國と其義とを尋ねる者すべてを加へらるべきを約し給ふ、けだしすべては神に属するより神を有する者はもし自ら神より離れずんば何に於ても乏しきとあらざればなりかくの如く「ダニエルの王命よりて獅穴に投げられしや神の照管によりて食を備へらる、ゆゑに神の人は餓ゑたる猛獸の中よりありて飽くを得たりき」ダニエル十四の三十又かくの如くイリヤは逃走の時、於て養を受く筈逐せらるゝ彼は曠野に於て鳥より食を得たり、即鳥は彼に食物をさしげたりき。

「エスサの聖ダリゴリイ曰く思ふに日用の糧を願ふべきの命は我等より

左の教訓を授けらるゝなり即小なるものも満足すると無慾の法も循ひて節制するとは天性何物も乏しきとの有らざる者と比さるべしとなり神の使は糧を與へらるゝを祈禱も於て神も願はざらん何となれば此の如きものも必要有らざるの天性を賦されればなりされども人よはこれを願ふべきを命せらる何となれば虚くなるものは必ずこれを充たすものも必要有ればなり人間の生命の組織は速も過去もて分離されたるものも代りこれを回復するものを要するなり故も天性も聽従ひて必要の外徒然しき思の爲も誘ひ去られざる者は己の爲も小なるものをもて満足するもより何物も乏しきとの有らざる天使も倣ひつゝ生活上も於て天使の品位より多く下るとあらざるなり

故も神も告げて「我等の糧を與へ給へ」といふはこれたゞ有形なる實體を守るも足る丈のものも願ふべきを我等も命せらるゝなり言意は我等の願ふべきは諸の慰もあらず富も非ず華麗なる紫衣もあらず金飾もあらず石の光澤あるも非ず銀器も非ず廣大なる領地も非ず將軍の職も非ず城都民衆を領するも非ず市場も於て有名なるも非ず紀念碑も非ず圖書も非ず綾羅錦繡も非ず音楽の樂みも非ず及ひ其他神も屬する大も尊敬すべきの配慮より靈魂を誘去るべきものも非ずしてたゞ糧を與へ給へと願ふべしとなり

「汝は智慧の此廣大なるを見るか此簡短なる言中も幾多の教導を包含ひか糧といふ言はこれをもて主は注意者も左の如く告るものも如し

曰く「ア、人々よ虚しさものをねがふ望の爲よ心を費すを止めよ、困苦の端を増して自ら己れを禍するをやめよ、汝が天然の負は大なるよ非ず、汝は己の肉體よ食を給すべき義務あり、さりながら要用のみ注目するならば事大なるよ非ず又難さよ非るなり何の爲よ己の貢税を増すか、何の爲よ夫丈の負を擔ふて自身よ重税を駕るか」と、されば生活の要用の爲よたゞ一の糧を願ふべし、これをもて天然は汝を體よ務るの負債者となしぬ、されどもこれより以外奢侈逸樂よ耽るよよりて創設むる所のものは考を加種うる者より出づるなり、家主は麥を播きて麥よより餅を製す、されども奢侈は敵が麥中よ加種うるの考なり、さりながら人々は必要なるものをもて天然よ務むるを廢むると實よ聖賢よ

言ふ所の如くして「マルク四の七十九虚しさ費心の爲よ蹈荒され成熟よ達せざるなり、何となれば靈魂は此等の虚しさ者をもて不斷よ己を慰むればなり、欠く可らざるの要品よて限を立つべし、汝よある所のものをもて不足を補ふは汝の生活を慮るの界限たるべし、もし一の勧誘者あり來りて汝と談合ひ目の爲よ美はしく口の爲よ悦ばしさものよ言及ばんよ、汝は餅と共よ副食物を備ふるを索めこれよよりて其望を必要なる者の界限より遠くひろぐるとあらんよ、汝は必ず貪慾の羅よ罹らん、けだし必用の食物より滋味よ移ると共よ目の爲よ樂しさ者よも移るべくして美屋、軟榻、金襖の衣、家僕、燭臺、香爐、又は其他のものを求めん、且此のすべての爲よいよ多くこれを有た

ちとすべし、即貪慾の病む所となるべし、然のみならず、腹は欲する所の
 ものよて充たさるゝやこれより、次で飽満つるより、人はいよく淫蕩
 の甚だしきよ引誘せられて狂するに至らん、これぞ人間の惡の極なる、
 故より、此事の生ずるあらざらんが爲、天然が自ら汝の爲、調理せ
 る所の食物を求め、祈禱を此の助即餅を願ふをもて、限るべし、汝はたゞ
 此の必要品の爲、思を領せしめて、足るなり、地より食物を田さしめ、聖
 詠百三の十四、鴉を養ひ、聖詠百四十六の九、糧を悉く、の肉體よ賜ひ、聖
 詠百三十五の二十五、手を開きて、恩寵を悉く、の生ける物よ飽かしむる、聖
 詠百四十四の十六、所の者よ告げていふべし、曰く、我が生命は汝よりす
 願くは、生命よ充つる方法も、汝よりて成るを得ん、汝は糧を與へよ、即

正しき労働より食を得せしめ賜へ」と。

「今日といふ言を加へしは、亦最妙なり、げだし、我等が日用の糧を今日我
 等と賜へ」といへる、此の言中よは、又他の智慧の籠るあり、汝は此を誦へ
 て、人生の目的なるを認むべし、各人の所有物は、たゞ一の現在よ止ま
 り、將來よ對しての望みは、知る可らざるなす、げだし、一日の生ずる所、如
 何なるを知らざれば、なり、箴言二十七の二、何故知る可らざる所のもの
 をもて己を苦め、將來を慮るの掛念をもて己を弱らすか、言ふあり、「一日
 の苦勞は、一日の爲よ足れり、」マト、フェイ六の三十四、何故明日の爲の慮り
 を附加へるか、主が今日といふべきを命ずるは、これ日を汝と與へし者
 は、其日よ充つる要用のものをも、汝と與ふべきを、教示して、明日の爲よ

思煩ぶを禁ずるなり。夫の成り難き望の爲に欺騙かれ毀ちて復た建て且積蓄ふる富者はいよく用意したるより果して何の益やありし。夜は彼れの望の全く空想なりしを證せしめあらずや身體の生活は今の現在をもて限られて希望に任されたる生活は靈魂の固有に屬しさりながら人間の愚なるは身體の生活を希望をもて長うせんと欲して靈魂に屬する生活をば現在のものを樂むよりて失ひ彼れ此れ認用ひて罪を犯すなり。されども靈魂は見ゆる所の者も占領せられて勢必ず眞誠實在の望みも遠ざかるものとなり堅牢ならざるものを希望してこれを聊頼しつゝ此れをも領せず又彼の望みしものをも得ざらんとす。

「されば吾人は今日願ふべきは何物にして將來に願ふべきは何物なるを此の教訓によりて學ばん糧は今日の要用にして國は希望に屬するの福樂なり。されば聖書に糧の事をいふはすべて身體に屬する要用をいふと知るべし。もし此を願ふならば其祈願する者の心は一目的のものに慮るよあるは明白なるべし。されども或る靈魂上の幸福を願ふならば其願は常に存在して終りなきものを得んと欲するよあるは疑なうして主はまた祈願する者も特にこれに注目するを命じこれをもて其の第一の必要を満足すべき至重要なる者となしぬ。主はいへらく「國と義とを願ふべし。然らばこれ等の者皆汝等に加はらん。」マトフイ六の三十三。

イニルサリムの聖キリール曰く「我等が日用の糧を今日我等と與へ給へ」
 尋常の糧は生活に緊要なる糧と非ず、たゞ此の聖なる糧主の糧と血は
 生活に緊要なる、即ち靈魂の實體と勢力を有するの糧なり、此の糧は汝が
 全身の組織と與へられて聖と體とを益するなり、さて今日といふ言は
 毎日といふ言は代用されしなり、こはパウエルもいひし如し、曰く「今日
 と稱ふるを得る間、日日「エツレ、イ三の十三」
 聖金口曰く「生活に緊要なる糧とは何物なるか、日用の糧をいふなり、け
 だし主イエスは「汝の旨は天に行はるゝ如く、地もも行はれん」といは
 れたれど、其の談話する所のものは肉體と包まれ、天性の緊要なる法と
 屬して、天使の如く無欲なるわたはざる人々なるより、たゞ「我等と

誠命を行ふと、天使の此を行ふが如くすべきを命ずと雖も、終にまた其
 の天性の弱さを恕して、左の如く言ふものゝ如し、曰く「我れ汝等より天
 使と同様なる生活の厳しさを促す、さりながら無欲を促さざるなり、け
 だし食は必要有る汝等の天性は、此を許さなければなり」と見るべし、是れ
 聖神上よりも多く身體上と屬するを、救世主が祈禱するを命せしは、富
 の爲にわらず、満足の爲にわらず、高價なる衣服の爲にわらず、又は其他
 此に類する如何なる物の爲にもわらずして、たゞ糧の爲に、且は日用の
 糧の爲に、これ我等明日に屬するものゝ爲に、思煩はざらんが爲に、
 何の爲に生活に緊要なる糧、即ち日用の糧といふ言を添ひしや、且此言も
 ても満足せずして、今日我等と與へ給へといふをも、又後に加へしや、こ

れ我等將に來らんとする日の爲に掛念するをもて己を憫まざらんが爲なり。けだしその來らん日の續くを見るべきや否をも知らずんば何故それが爲に苦慮るか。救世主は後於ても其教訓を與へて「明日の爲に慮るなかれ」との給へり。主は我等常に信仰に帶緊られ且これに纏はれて欠く可らざる必要の我等に促す丈に止めそれより多く天性に譲らざらんことを欲するなり。

又曰く「けだし主は既に地の事は説及びたれども地より生じて地の上は生活し地は屬するの體をもて被はれたる實體の爲にはそれは相當する食物の食用あるより主は緊要の爲に我等が日用の糧を今日我等と賜へ」といふを附加し給へり。彼が日用の糧を願ふを命せしは美食

の爲にわらずたゞ體に於て消費されたるものを充たし餓て死するを免るゝ養の爲なり。即華侈なる膳部にわらず、異種多様の食物にわらず、即厨人の調理や麵包師の創製、旨酒及び其他これに類するもの、わらず、舌を喜ばしむれども胃を苦ましめ智識を味とし體をして盡し逆はしめ牡馬をして御者、従はざらしむる所の者、はわらざるなり。誠命は我等に此を願ふべきを教へずしてただ日用の糧を即現體を循環しでこれを支持する所のものを願ふべきを教ふ加之我等にこれを願ふべきを誠命せしは許多の年月の間、わらずして今日我等に必要なるだけ止まる主のいへらく「明日の爲に慮るなかれ」マトフェイ六の三十四に「されば恐くは明日を見ざらんともあるべく、事業を起して成果を

穫らざらんともあるべき所の者よして何故明日の爲に慮るか悉くの
 肉體の糧を賜ひし神よ依頼すべし聖詠百三十五の二十五「汝も體を賜
 ひし者は靈をも賜入れて汝を生活有智ものとなし汝を遣るの先き汝
 の爲よわらゆる善を預備へて既よ造られたる汝も臨み給ふと左の如
 し曰く「其日を惡者と善者の上よ照らし雨を義者と不義者の上よ降し
 給へり」マトフエ五の四十五「ゆゑ神よ依頼してたゞ今日の爲に食を
 願ふべし明日の爲の慮は神よ委ねると福なる太閤の言ふが如くすべ
 し曰く「汝の哀みを主よ負はしめよ然らば彼は汝を扶けん」聖詠五十四
 の廿三

聖カシアン曰く糧とは主イエスマスハリストスと其の至淨なる體と生

命を施すの血をいふ我等が日用の糧とはわらゆる實體よ超ゆるの
 糧或は他の福音記者が「毎日の糧を今日我等と賜へ」路加十一の三譯者
 云ふ此譯は本文と少し異なるなりといふ是なり初の言を以ては其の悉
 くの實體よ超ゆる其の聖體の高さをもちわらゆる造物よ秀づる眞實な
 る價值を示し而して後の言を以てはこれを用ふるに其益とをわらは
 すけだし毎日といふ言は我等これなくんば神よ属するの生活を一日
 も繼續する能はざるべきを示し而して今日といふは我等毎日これを
 うくべくしてもし今日も同じこれを我等と與へられずば昨日の暮め
 たるは不充分なるべきをあらはすけだし此糧をうけこれを嘗むるよ
 よりて我等が内部の人を堅むべきの要あらざる日はこれなきよより

かくの如く當然よりくべき者の日々の需要は我等は何れの時よりもこれと祈禱を注ぐべきを教ふるなり。さりながら今日といふ言は現生の意味も取るを得べし。言意は我等が此世に居るの間此糧を我等と與へ給へとなり。けだし來生に於てはこれを受くるも堪ふる者も汝をもて與へらるゝことを知ればなり。さりながら我等はなほ今日もこれを我等と與へられんことを願ふ。けだし現生に於てこれを領くるも堪へざる者は來生に於てもこれをうくると能はざればなり。

福アウグスティン主の山上教訓の論文に於ていへらく糧とは三義を有するを得べし。即一は物體に属する糧と共々凡て生活の爲に欠く可らざる他の物を示し、二はハリストスの體の機密、我等毎日うくる當時は

かくありき所のものを示し、三は主がいふ所の神に属する食料を示す。主はいへらく「壊るべき糧の爲に勞するなかれ存して永生に至る糧の爲に勞すべし」イオアン六の二十七。主は又他の處に於てもいへり曰く「我の糧は我を遣ししもの、旨を遵守ひて其功を成すより」イオアン四の三十四。アウグスティンは此の三義の中或は特々甲の義を論じ或は乙の義を論ず然れども彼はすべて三者に常々注意をなせり。

「毎日の糧とは此處にては神に属する糧の義に取るを要す、これ即毎日うけて實地に行ふべき所の神の誠命をいふなり。けだし主が「壊るべき糧の爲に勞するなかれ」といひしはこれを指したるなり。此を名づけて毎日の糧といふはけだし我等が此世の生活は日の代替と共々送られ

て甲去り乙來ればなり。さりながら誠命を守ることは我等各人の業務たるべし。けだし我等が心神の傾きは或は上より登り或は下より降り即或は神に属するものより向ひ或は肉に属するものより向ふと恰も身體の或は食に飽き或は飢を覺ゆるが如くなるより神に属する食料はいかなる日よ於ても心神の爲に緊要にして心神はこの食より固められしむすべし。下より降り毎に更の上より登らんを要すればなり。我等が身體は此の生活に於て即變化に属せざる未來の生活の先きよ於ては衰弱を覺ゆるや食より固めらるゝ如く心神も此世の欲の爲め神に向ふに於て衰弱よかゝるより神の誠命の食より毎日固められんを要するなり。されば今日我等より賜へ即今日と稱ふる間ニ「エウレイ三の

十三賜へといふはこれ即現在一時の生活に與へ給へといふも同じけだし今生の後來生に於ては我等神に属する食料にて永く満足せんとすればなり。されば其時は食料も毎日の糧とは名づけられざるなり。其時は此日彼日と代替りて毎日といふを生ずべき時の過るとわらざればなり。望むらくは汝曹今日我が聲を聞かん。聖詠九十四の七といへるは如何なる義か。使徒は希伯來人達する書に此の今日といふの如何なる義なるを解釋して今日と稱ふる間といへり。されば今日我等も賜へといふも亦かれと同様の義を取るべし。さればもし誰か此處に糧といへるを身體上欠く可らざる食料の義を取らんと欲し或は主の體の奥密の義を取らんと欲するもこの糧は最早三義を皆合せたるの義

一取るべし即身体の爲は欠く可らざる毎日の糧の義も奥密として
 且見ゆる糧の義も神の言の見る可からざる心中の糧の義も取る
 べし。
 又曰く我等の此祈禱を行ふは我等毎日の給養の我等も餘あらんが爲
 或はよし餘あらざるも畢竟乏さを告るとのあらざらんが爲なりと單
 純に理會するを得べし生活は緊要なる即毎日のといふは今生に於
 て即今日と稱ふるを得る間「エウレイ三の十三」どの意味よていへるな
 り我等は毎日起き毎日餓る毎日飽くされば我等はいづれの日も於て
 も我が在天の父の我等も糧を賜はらんとを祈らん故に庇覆の事は言
 はざりしなり然れどもたゞ我等も緊要なるは給養即食と飲と庇覆即

衣服と居住となるべし我等は何も携へて世に來らざりき亦何も携へ
 て往くあたはざるは明なり食あり衣あればこれをもて足れりと爲す
 べし「テイモフエ前六の七八」といへば使徒もこれより尙多く望むとは命
 せざらんけだし衣服と居住とは我等が欠く可らざる緊要に属するよ
 より「我等が日用の糧を今日我等も賜へ」といふ時は此等の物をも併言
 ふと瞭解して不適合はあらざるなりされば一の糧を稱して其他の欠
 く可らざる要品をも併言ふと理會するも異ひべきよわらずイオシフ
 も其兄弟を招請したる時よいへり「此の人々正午に我と共に糧を食す
 べければなり」と「創世記四十三の十六」ア、此の饗應に於て彼等はたゞ
 一の糧を食したるのみならんやされば糧とはすべて其他の物をもい

ふと知るべし。かくの如く我等日用の糧の爲に祈禱する時もこれ我等はすべて此世に於て我が肉體の爲に要用なるものを請願するなり。夫に糧とは神の晩餐をいふと知るべし。これ猶神の晩餐を日用の糧の如くいづれの日も於ても我等と與へ給へといふもの。如し、凡て信者は受けて己れに賜するものは此生活に於てかくの如く緊要なる此の日用の糧をうくるよあるを知る。さりながら人皆常に此をうくるよ堪ふるものとなるよはわらざるよより信者は常に善なる者とならんとを祈る。即ち教へ忠よして生活上非難されざる者となるを賜はらんとを祈るなり。これぞ彼等が望むべき所のものなる。これぞ彼等が願ふべき所の事なる。けだしもし此の如きものとならずんば此の日用の糧を絶

たるべければなり。されども糧といふ言を此の如く理會する時は「我等が日用の糧を今日我等と賜へ」といふはいかなる義か。これ即ち汝の聖臺より永く絶たれざらんやうに生活するを我等と賜へとの義なり。終り毎日汝等と告げられ或る方法をもて汝等の爲に擊かるゝ神の言はこれ即ち日用の糧なり。且や智識の彼れに饑るは猶腹の物躰に属する糧に饑るが如し。かくの如く我等は主の祈禱に於てこれをも願ふなり。かくの如くなれば日用の糧とは知るべし。すべて今生に於て靈と躰との爲に緊要にして欠く可らざるものをいふを。

表信者聖マクシムは前文求望の解釋の終りに於て此處に糧といふは天より降りて世に生命を與ふるの糧「イオアン六の三十三」を示すと序

一 起憶して言を續くると次の如し、曰く思ふも今日とは現世を表し祈禱の場所を示す、これ或人の更に分明よいひしが如し、曰く我等の糧とは我等の性を不死ならしめんが爲も太初神の備へ給ひしものといふ。今日我等と與へ給へとは死すべき現生に居る我等と與へ給へとなり、これ生命と認識とを糧よて養ひ罪よりて生ずる所の死も克たんが爲なり、それ神の誠命の破壊は初人を常も何の養も受く可らざる者とならしめたりき、けだしもし初人として此の神與の養も飽くとをやめざりしならば罪の死の擄ふる所とはならざりしならん。さりながら此の生活は緊要なる糧をうけんを祈願する者は其あるまゝを皆全くうくもはあらず却て受る者の容量も準ずるなり、此の

生命ある糧を彼はすべて願ふ所の者も授く、けだし彼は仁慈者なればなり、されども衆人は一様の量をもて授くるもあらずして大事を成したる者もは更も十分も授くれども其の乏き者もは更も乏く授くるなり、要するも智識も於て其功徳を容れ得るの量もよるなり。
 「物躰は屬する食料の爲も慮るなかれと其門徒も明も命じ給へる救世主は余をして前文の糧といへる言をかくの如く(靈神上の意味も)了解せしめぬ言ふあり、曰く「汝等の生命の爲も何を食ひ何を飲み或は汝等の躰の爲も何を衣んと憂慮るなかれ、これ皆異邦人の求むる所なり、まづ神の國と其義とを求め、然らば此等のもの皆汝等も加はらん」マツト
 フェイ六の二十五、三十二、三十三、先きも求むべからざるを命じたる其物

を請願すべきを彼れいかよして教へんや先さ誠命を以て求む可らざるを訓示したる其物を彼は此處に祈禱を以て求むるを命せざらん
と明なりけだし唯誠命よりて求むべき所のものは祈禱に於てもこれを願ふとを得ればなりゆゑ誠命に於て我等と求むるを命せられざるものは祈禱に於てもこれを願ふべからざるなりもし救世主はた
神の國と其義とを求むべきを誠命せしならば彼は祈禱に於てもこれを求むるを神の賜を尋ぬる者と訓示すると勿論なりこれ其の性質
に依り祈禱に於て願ふを得べき所のものは必ずこれを賜はるを保證して請願する者の求めを恩寵を與ふる者の旨と配合せしめかくの如
き合一よりて恩寵を實際に顯はすの途を啓かんが爲なり。

「さりながらもし此處は我等が現生を常と支ふる所の日用の糧を請願すべきを我等と命せらるると此の如く了解するも其際も於ても我等は祈禱の界限を犯すを自ら許さざらん即我等は死すべくして影の如く
過去の生命を有するものたるを忘れ得るを貪るよりて己が圖謀を許すの年月の間も及ぼさざらん我等はハリストス教の哲理より
死を思ふを我が生命の主眼とするをわらはし死の未だ至らざる先
思よて天性の界限も立ちて離れざらん且此の方法をもて靈魂を身
の爲に慮るの掛慮より脱れしめ祈禱に於て當日の糧を憂慮なくして
請願せんこれ靈魂が物躰に属するものを當然と使用するを變じて
欲は從ひ敗壞に属するものは執着せざらんが爲なり及び神に属する

幸福の願を奪ふ所の貪慾は習染まざらんが爲なり。
 『されば我等は物躰を交りて一向にこれを好着するを出來るだけ避け
 智慧の眼よりこれを洗除くと塵の如くし現生を樂まむとはあらず
 たいこれを支持ふるのみを以て足れりとなさん且神は祈禱りて偏
 此事を習はんこれ我等己の靈魂を守りて奴隸となるより免れしめ如
 何なる有形物躰もすべて占領せられざらんが爲なり又我等は生
 るが爲は食ふをあらはして食ふが爲めは生くるとの嘲譏をまぬかれ
 んが爲なりけだし前者は智慧ある天性の行爲として後者は無言なる
 動物の行爲なり且神は屬する生活を獨一の生活とし守りて現生を利
 用するは此の神は屬する生活を得んが爲なるを實際は表はし祈禱を

眞實に守る者とならんが爲なり言意は一の糧をもて現生を支ふるを
 辭せず其の天然の進行を守りて崩さるは生さんが爲はあらず神の
 爲は生さんが爲としてそれ丈は現生を利用せんを欲すとなり。
 福フエオフラクト曰く主はたい日用の糧を願ふべきを教ふこれ即我等
 の存在の爲及び生命を保つが爲は有益なるものとして決して贅澤の
 ものよあらず乃緊要として欠くべからざるものなり。
 又曰く我等の天性を強壯に守るが爲は充分なるものを日用の糧と名
 づくるなりされども今日といふ言をもて明日の爲は慮るを省かるゝ
 なりハリストスの躰は日用の糧なり我等非難なくしてこれを領けん
 とを祈禱すべし。

ソルンのシメオン曰く是より先き我等は天に属するものを請願せり、然れども我等は死すべき者として生命を保つが爲に糧は必要有ればこれをも願はん、けだし我等は人なればなり、我等の父は汝の右の手よりて汝は獨り乏しからず我等はすべてに於て乏しきことを知ればなり、さりながら糧を願ふも餘り多くこれを願はず、たい今日用の爲に要するだけを願はん、けだし我等は明日の爲に慮るなかれと教へられたればなり、何となれば父は今日我等の養育者たる如く、明日も常に養育者たるよよる、且や我等は日用の糧を祈願しつゝ併て天に属するの活くる糧即活くる言の至聖なる跡をも願はん、そはこれを食はざる者は生きざればなり、けだし彼も我等が日用の糧にして靈と跡と

を堅め且服すよよる、これを食はざる者は己れの衷に生命を有たじ食よ者比世々よ生きん、イオアン六の五十三、五十八
 主教ライモン曰く生活は緊要なる糧とは金口の解に依るよ日用の糧をいふなり、さて此處はたゞ糧のみをいふよあらず、凡て此の暫時の生活の爲に必要なるもの例へば或人の解釋するが如く飲料、衣服、居室、家屋及び其他の物をいふなり、我等は富を願はずして此の生活を保つよ必要なるものを願はん、即願ふは金銀よもあらず、榮華よも非ず、高價なる衣服よも非ず、又は其他のこれよ類する者よも非ずしてたゞ糧なり、日々よ用ふる所の糧なり、然れども金口の言よ如く我等は明日の爲に慮らざるべし、此よよりて見れば、ハリスティアニンは富と高價なる衣服

と富める家屋と富める食物又は其他此れも類する者の爲に慮るべからざると明なりけだし、ハリステアニンは主が己を召す時は此のすべてを強て棄てんとを常と心掛ざるべからざればなり。さて主は死に由りてすべての人を召すなり。金口言へらく主は我等常と心掛けて、我等の天性も必要なるものにて足れりとなさんと欲す。糧を我等と與へ給へ」と祈禱するはこれ我等は貧なる者極めて弱する者憫然の者なるが故すべてを神に願ふべく何の有する所あるもすべて神の仁慈に歸すると聖詠者の唱ふ如くなるべきを信認するなり。曰く「衆の目は汝を望み汝は時と隨て彼等と糧を賜ふ汝は其恵みの手を開きてもろく生ける者も飽かしめ給ふ」聖詠百四十四の十五、十六「糧を我等と與へ給

へ」と言ふはたゞ自己の給養の爲に願ふのみならず、ハリステアニンの愛より他の人々の爲にも願ふべきを示す。けだし「ハリステアニンの愛は我等たゞ己の爲に慮らず其隣の爲にも慮らんを要すればなり。神は寛大なるより此世の善をたゞ「ハリステアニンは賜ふのみならず神を知らざる者も賜ふとは人の知る所なり、されども「ハリステアニンは天の父の子たるより全き信仰をもてこれを其父に願ふべく且此よりして生活も必要なるいかなる物を有てるもそのすべては神の仁慈に屬するをあらはし恩恵をうけて恩恵を施す者も感謝せんことを要するなり。

第五求望

我等に負ある者を我等免すが如く我等の負を免し給へ

テルトリアン曰く我等は神の寛大に向つて請願したる後其憐みをも願出でんと要す食は我等も必要なるものと有益なるものとを悉く包括するにあらざるなり主はたゞ獨り常に無罪者たることを知れり故に我等が負の赦されんことを祈禱すべきを我等も教ふるなり是れ痛悔なり赦免の請願なり赦免を請願する者は罪を痛悔するなりかくの如く神は悔改をうくるを證し罪人の死するを欲せずして悔改を望み給ふ(イゼキリ三十三の十一)負とは聖書に罪を形狀るなりそれ裁判をうけ詰問し服するあらん詰問せらるる者は負ふ所を悉く償却はざら

ん間は除免されざること主の誓をもてあらはせるが如し(マトフェイ十八の廿三―三十四)彼の誓は此の求望の旨意を解明す全く關係あるなりけだし彼處に主人より憐をうけたる僕はそれが爲し其の己れも負ある者も必ず赦すべかりしと赦さざりきよりて其の主人は訴へられて至微なる「コドラント」ローマの小銅貨即其債の至小なる殘餘に至るまでも嚴しく督促するが爲し拷問し付されたりこれ我等をして主より赦をうけたるが爲し其の己れも負ある者も赦さんことを欲せしむるなり主はこれと同じ趣意にて他の處に於ても誠命していらく「宥せよ然らば汝等も宥されん」ルカ六の三十七、ペートルが主に向ひて七次に至るまで赦すべしとやと問ひける時も主は答へてたゞ七